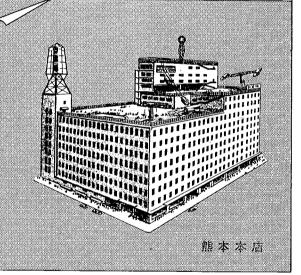
ご家庭に
幸せをはこぶ
バラの包装紙

おくりものに

大洋の商品券

熊本八代両店共通

熊本市下通町1丁目3－10

TEL〈大代表〉2－1111

ハンドボール 「第39号目次」

昭和41年12月号

〔表紙写真〕 関東学生秋季リーグ、芝浦工大対教大戦から

〔おわび〕 第38号(11月号)の表紙で、MARとなっていましたが、これはNOVの誤りでした。おわびいたします。

私のことば　審判技術の統一

山口県協会会長
近間忠一

ハンドボール競技は、日本協会の英断で11人制から7人制に変わり、ハンドボール競技のもつスピード感が一層引き立ち、すばらしいスポーツとして普及発展してきています。山口県におけるクラブチームの衰退は寂しい限りですが、実業団チーム、中学校チームが著しく増加し、大会ごとに充実した内容の試合が多く見られるようになりました。

そこで日本ハンドボール協会ならびに各都道府県の指導者の方にお願いしたいことは、審判技術の統一です。11人制のころは遠くから見ている関係もあって、審判の判定について観衆に不審をいだかすようなこともなかったように思います。7人制になって高度な技術とスピードを必要とし、かつまた競技者が目の前でプレーをしている近代ハンドボールでは、いやでも審判の判定が観衆の目につきます。"統一"このことばの意味はあらゆるスポーツの基礎として適用するものと思います。とくにハンドボールのように審判に絶対的権利があるスポーツでは、その試合の運命をにぎるといっても過言ではないと思います。

今日まで見てきた試合のなかで、審判のルールの解釈の不統一が大きな大会になるほど目についたからです。たしかに審判も人間ですから、ある程度の個人差はあるものです。どうも競技規則に従って試合を運営するという審判の原則よりも、主観にたよって競技を運営しているような試合が多いように思います。全国の選手たちはハンドボール規則に基づいて技術、体力、根性の育成に努力し、ハンドボールの発展のために協力しているのだから、笛をふく人たちは、選手たちがじゅうぶんプレーできるよう、規則の上に立って試合を運営してほしいと思います。

7人制ハンドボール競技起草者の一人ジャン・ドレザル氏が本誌でいっておられるように、審判員は競技規則の精神に従って試合を運営するよう努力しなければならない。このことが選手に危険なプレーを心配することなく試合ができ、じゅうぶん自分の持っている技術とスピードを発揮させ、プレーに喜びを感ずるようになる。まさにそのとおりと思います。観衆によい試合を見せる。すべてのスポーツの普及の基礎となることばと思います。昔のことわざに「スポーツとは愛するものなり。愛するがために苦労もしよう。努力もしよう」というのがあります。ハンドボールが日本の一大スポーツとして発展普及するよう努力してください。

第21回国民体育大会

高校男子　明星が初優勝

一般は大崎（男）と田村紡（女）

第21回国体ハンドボール競技は10月24日から5日間、大分市鶴崎高球技場に全国の予選を勝ち抜いた5部門72チーム（一般男30、一般女12、高校男女・教員各10）が参加して開かれた。全般のレベルアップから地域差がなくなり、波乱にとんだ試合が続いた。一般男子は大崎電気（埼玉）が6連勝、一般女子は田村紡（三重）が2連勝と今年も実業団の単独チームが優勝するところとなった。高校男子決勝は明星（東京）が、夏の全国高校選手権に続いて桜台（愛知）と顔を合わせ、桜台を破って初優勝するとともに東京都に初優勝をもたらした。高校女子は菊池農（熊本）が2連勝し、教員は大阪イーグルス（大阪）が第19回に次いで2度目の優勝を飾った。なお天皇杯得点1位は大阪府（6年ぶり8回目）皇后杯得点1位は熊本県（2年連続・3回目）となった。来年の大会は埼玉県浦和市で開かれる。

10月24～28日・大分県

宗形、決勝で敗れる

一般男子

▽1回戦

奈良ク（奈良）26（16－11　10－11）22 北農ク（長野）

〔評〕奈良クは得意のポストプレーと鳥井の変形シュートで得点した。北農クはゴール前の切り込みが少なく、シュートも悪かった。

常盤工業（岐阜）35（19－7　16－10）17 鹿児島ク（鹿児島）

〔評〕常盤は全員ムラなく得点し一方的な試合とした。鹿児島はディフェンスが乱れ、コンビネーションも悪かった。

全神奈川（神奈川）28（13－5　15－4）9 盛岡商友会（盛岡）

〔評〕全神奈川は中根（全立大）の個人技、安達（全立大）のロングシュートを生かして得点した。盛岡は新里を中心によくがんばったが及ばなかった。

大分ク（大分）19（8－6　11－4）10 県工ク（石川）

〔評〕前半は接戦となったが、後半大分が走り勝った。県工クは吉田が5点をあげる活躍をみせたが、大分の走りについていけなかった。

大農ク（秋田）19（8－6　5－7　2－0　4－2）15 AOK（栃木）

〔評〕延長になってから大農が主導権を握って勝った。両チームとも真剣にゲームを進め、好感が持てた。

菊松会（広島）29（11－7　18－11）18 伏見ク（京都）

〔評〕菊松会はコンビがよく、豪快なプレーをみせた。伏見クは野崎、小磯、坂元らが健闘した。伏見はもう少しポストプレーを研究したらいいと思う。

住友化学（愛媛）31（16－8　15－5）13 函館サンダー（北海道）

〔評〕函館は前半16分まで8－7と1点差でついていたが、20分すぎから住友のワンサイドとなってしまった。

宗形製作（大阪）16（9－6　7－9）15 清商ク（静岡）

〔評〕後半23分まで16－12と宗形がリード。清商クは必死に追撃し、服部、大石、榊原の好打で1点差としたが、惜しくも時間切れ。

熊本ク（熊本）36（16－12　20－8）20 安積ク（福島）

〔評〕スピードある試合を展開。安積は数多いチャンスにミスを繰り返していた。熊本は柿塚、江口、吉田、佐々の好打で安積を押えた。

塩山ク（山梨）27（12－8　15－15）23 高松一高OB（香川）

〔評〕前半高松は大高、宮本の好シュートで善戦すれば、塩山も平塚、宮原、金子らが好打してリードを奪った。後半3分、高松が12－11と1点差にしてから激しく打ち合いおもしろい試合となった。

本田技研（三重）19（8－3　11－8）11 徳山ク（山口）

〔評〕本田は走力、パスワークにまさり、徳山を押えた。徳山の安沢は一人で6点をあげてがんばった。本田は佐藤が9点、後藤が7点、小川が3点をあげた。

富士レジン（兵庫）23（9－10　14－7）17 東北学院大OB（宮城）

〔評〕富士は前半、東北学院の遅攻にまどわされたが、後半両サイド攻撃をかけて東北学院を破った。東北学院の高橋のプレーはよかった。

氷見ク（富山）28（15－7　13－15）22 岡野愛球会（福岡）

〔評〕氷見は早い走りとパスワークで得点し、一度も岡野にリードを許さなかった。岡野は矢島が11点、友広が7点をあげるなど氷見に食い下がったが、惜敗した。

和商ク（和歌山）33（11－13　14－12　0－2　3－1　2－2　3－1）31 全群馬（群馬）

〔評〕第二延長の前半まで30－30と同点、和商クは後半1分に和田、1分30秒、2分30秒に島が連続ゲットして全群馬を押えた。全群馬は田中が一人で14点をあげる活躍をみせた。

▽2回戦

大崎電気（埼玉） 38（23－6 15－7）13 奈良ク

〔評〕奈良は島井を中心に樽井、西村らが善戦したが、後半大崎の速攻に敗れた。大崎の若手が伸び伸びとプレーしたのが目立った。

全神奈川 24（12－8 12－7）15 常盤工業

〔評〕全神奈川はセットを組み、ボールを回しながらチャンスをねらった。これが成功して常盤を破った。常盤はラフプレーが多かった。

大分ク 18（11－7 7－6）13 大農ク

〔評〕大分は榊のジャンプシュートを生かすため、大農のディフェンスをエリア前に引きつける作戦が成功した。大農は個人プレーに走りすぎた。

住友化学 23（11－8 12－6）14 菊松会

〔評〕菊松会の善戦が印象に残った試合。住友は練習量にものをいわせて走り、北山、加藤、長嶺の好打で菊松会を破った。

宗形製作 25（13－11 12－9）20 熊本ク

〔評〕好試合を展開。宗形の速攻に軍配が上がった。熊本は吉田、井、佐々のプレーはよかった。

本田技研 25（13－11 12－9）20 塩山ク

〔評〕両チームともよく走った。塩山は両サイド攻撃を忘れて中央にこだわったのが敗因。塩山の平塚は10点をあげた。

総合は大阪、女子は熊本

天皇杯得点			皇后杯得点		
1.	大阪	10	1.	熊本	10
2.	熊本	7	2.	三重	7
3.	埼玉	6	3.	静岡	6
4.	大分	5	4.	秋田	4.5
5.	三重	4	4.	埼玉	4.5
6.	愛知	3	6,	栃木	2
7.	東京	2	6.	愛知	2
8.	愛媛	1	8.	大阪	2

氷見ク 22（2－0 0－1 11－9 9－11）21 富士レジン

〔評〕氷見クは延長後半のタイムアップ寸前に、速攻から森のシュートで富士レジンを押えた。実力が伯仲していたのでおもしろかった。

和商ク 23（16－10 7－11）21 千代田印刷機（東京）

〔評〕和商クは後半25分松本のゲットで20－20と追いつき、このあと松本、和田、吉野の好打で第2シードの千代田印刷機を破った。この試合和商クは2人、千代田は4人の反則退場者を出した。

全神奈川善戦

◇準々決勝

大崎電気 15（9－8 6－4）12 全神奈川

「レフェリー」岡井幸由（日体大出）

得	大崎		全神奈川	得
0	福本	GK	青木	0
0	下里		池田弘	0
2	金田	FP	安達	4
2	北村		杉山	3
5	井上		中根	2
2	小谷内		吉川	0
0	西村		小林	0
3	竹野		林	0
1	坂野		村田	0
0	宮田		中	0
0	宮原		池田鉄	3

15（0）7MT（2）12

▽反則退場者（全神奈川）林

〔評〕全神奈川は安達－中根の全立大コンビで大崎電気を苦しめた。大崎電気は井上を中心によく走り、後半21分から25分までに小谷内、北村、金田、井上が連続ゲットして14－9とし、全神奈川の追撃をうまくかわして逃げ切った。

住友化学楽勝

住友化学 27（11－12 16－6）18 大分ク

「レフェリー」柳井文治（日体大出）

得	大分		住友	得
0	岡	GK	季原	0
0	工藤		福本	0
0	秦	FP	神代	0
3	深田		上田	2
2	安部		公文	0
1	井上		松井	3
0	三重野		長嶺	2
7	榊		加藤	13
0	稲生		北山	6
0	吉良		落海	1
5	直野		中野	0

16（5）7MT（4）27

〔評〕総合力の差がはっきりした試合であった。前半の10点差をあきらめず、最後までベストを尽くした大分の健闘はほめていい。大分は榊が7点、直野が5点をあげる活躍でファンをわかせた。

氷見クラブ勝つ

氷見ク 23（14－4 9－6）10 和商ク

「レフェリー」安藤純光（法大出）

〔評〕前半は接戦。後半小雨となったが、氷見は正確なパスワークからチャンスをねらい、ポストプレーで得点した。和商クは練習不足のためかパスが悪かった。

得	氷見		和商	得
0	中野	GK	島本	0
0	稲積修		宮本	0
1	稲積忠	FP	田中	0
4	鏡宮		島	1
4	高橋		打田	1
5	関		和田	2
3	森		白井	2
6	山本		吉野	1
0	福田		関	1
0	谷口		松本	2
0	十二町		富田	0

23（1）7MT（0）10

宗形、逃げ込む

宗形製作 17（9－7 8－8）15 本田技研

「レフェリー」財前久範（日体大出）

得	宗形		本田	得
0	南	GK	本田	0
			森瀬	0
5	越智	FP	池田	1
0	多久		笠松	1
5	久保		花井	2
0	中林		小川	0
1	五味		松岡	5
2	吉川		大下	1
3	辻		佐藤	3
0	坂本		後藤	1
1	栗沢		松浦	1

17（3）7MT（1）15

▽反則退場者〔宗形〕越智〔本田〕笠松、後藤

〔評〕同型のチームなので変化のある試合は見られなかった。後半20分宗形は辻のシュートで15－12とリードしたが、本田は23分松岡、25分後藤の好打で15－14と1点差に詰め寄った。宗形は27分辻、29分吉川がゲットして17－14と差を3点とし、本田を突き放してやっと勝った。本田はタイムアップ寸前松岡の好シュートで17－15としたが及ばなかった。この試

合3人の反則退場者があった。

大崎電気勝つ

▽準決勝

大崎電気 20（14−2、6−2）4 住友化学

「レフェリー」財前久範（日体大出）

得	大崎		住友	得
0	福本	GK	季原	0
0	下里	GK	福本	0
1	金田	FP	神代	0
1	北村	FP	上田	0
4	井上	FP	公文	0
0	小谷内	FP	松井	0
3	西村	FP	長嶺	0
4	竹野	FP	加藤	0
5	坂野	FP	北山	4
0	宮田	FP	落海	0
2	宮原	FP	中野	0
20	（1）	7MT	（0）	4

〔評〕 前半4分に大崎電気の井上が得点するまで両チームともミスの連続で低調な試合。14分30秒に住友化学の北山がゲットして1−1。このあと大崎電気の速攻が始まり、前半6−2とリードした。後半は大崎電気の一方的な試合となってしまった。住友化学は大きなパスが多すぎ、細かいプレーが少なかった。

氷見クラブ健闘

宗形製作 25（15−9、10−6）15 氷見ク

「レフェリー」辻一義（日体大出）

得	宗形		氷見	得
0	南	GK	中野	0
		GK	稲積修	0
2	越智	FP	稲積忠	2
0	多久	FP	鏡宮	0
7	久保	FP	高橋	3
0	中林	FP	関	5
7	五味	FP	森	2
5	吉川	FP	山本	3
4	辻	FP	福田	0
0	坂本	FP	谷口	0
0	栗沢	FP	十二町	0
25	（3）	7MT	（2）	15

〔評〕 スピードは互角だったが、技術の点で宗形が一枚上。とくにシュートに格段の差があった。パス、カットインに終始したため、じみな試合展開となった。氷見がクラブチームとして準決勝までに健闘したのはほめられていい。

住友化学3位に

▽3位決定戦

住友化学 19（10−9、9−7）16 氷見ク

「レフェリー」財前久範（日体大出）

〔評〕 住友化学はつねに試合の主導権を握り、氷見クを押えた。前半20分に7−4と住友化学がリードしたが、このあと氷見が追込み前半は9−7。後半氷見は大いに食い下がったが、住友化学の優位はくずれず、そのまま住友化学が押し切った。

得	氷見		住友	得
0	中野	GK	季原	0
0	稲積修	GK	福本	0
1	稲積忠	FP	神代	0
2	鏡宮	FP	上田	1
2	高橋	FP	公文	0
1	関	FP	松井	1
0	森	FP	長嶺	6
5	山本	FP	加藤	5
3	福田	FP	北山	5
0	谷口	FP	落海	1
2	十二町	FP	中野	0
16	（0）	7MT	（2）	19

宗形善戦及ばす

▽決　勝

大崎電気 20（12−2、8−7）9 宗形製作

「レフェリー」岡村昭二（東教大出）

得	宗形		大崎	得
0	南	GK	福本	0
		GK	下里	0
2	越智	FP	金田	2
0	多久	FP	北村	2
1	久保	FP	井上	4
0	中林	FP	小谷内	0
2	五味	FP	西村	2
1	吉川	FP	竹野	5
2	辻	FP	坂野	2
0	坂本	FP	宮田	3
1	栗沢	FP	宮原	0
9	（1）	7MT	（1）	20

▽反則退場者 〔宗形〕辻〔大崎〕北村

〔評〕 宗形は前半越智にボールを集め、サイドを攻めて互角に試合を進めた。後半の宗形は帰陣がおそく、動きも鈍くなった。そこを大崎がうまく攻め込み、速攻の連続で大差をつけてしまった。宗形は後半にはいったとき、もっと積極的に攻めたらおもしろかったと思う。

栄　光　の　跡

種別／回	一般男子	一般女子	教員男子	高校男子	高校女子
第1回	全　関　西	豊中高女~~ＯＧ~~(大阪)		豊中中(大阪)	~~豊中高女(大阪)~~
第2回	大阪ク(大阪)	大阪女子ク(大阪)		天王寺中(大阪)	茨木高女(大阪)
第3回	全　九　州	大阪ク(大阪)		天王寺(大阪)	春日丘(大阪)
第4回	東京ク(東京)	大阪ク(大阪)		天王寺(大阪)	岡山一(岡山)
第5回	福岡ク(福岡)	青陵ＯＧ(岡山)		足利(栃木)	春日丘(大阪)
第6回	大阪ク(大阪)	岡山ク(岡山)		桜台(愛知)	青陵(岡山)
第7回	大阪ク(大阪)	青陵ク(岡山)		桜台(愛知)	稲沢(愛知)
第8回	大阪ク(大阪)	北星ク(北海道)		桜台(愛知)	稲沢(愛知)
第9回	東京ク(東京)	大阪ク(大阪)		済々黌(熊本)	寝屋川(大阪)
第10回	山口ク(山口)	稲沢ク(愛知)		桜台(愛知)	明善(福岡)
第11回	桜丘会(愛知)	明善ク(福岡)		桜台(愛知)	熊本市立(熊本)
第12回	大阪ク(大阪)	全愛知ク(愛知)		桜台(愛知)	静岡城北(静岡)
第13回	芝浦ク(東京)	寝屋川ク(大阪)		氷見(富山)	水海道二(茨城)
第14回	大阪ク(大阪)	寝屋川ク(大阪)		鎌倉学園(神奈川)	熊本市立(熊本)
第15回	桜丘会(愛知)	愛知紡(愛知)		中京商(愛知)	半田(愛知)
第16回	大崎電気(東京)	愛知紡(愛知)		兵庫工(兵庫)	水海道二(茨城)
第17回	大崎電気(東京)	大洋デパート(熊本)		桜台(愛知)	菊池農(熊本)
第18回	大崎電気(埼玉)	大洋デパート(熊本)	大阪教員団(大阪)	徳山(山口)	徳山(山口)
第19回	大崎電気(埼玉)	レナウン東京(東京)	大阪イーグルス(大阪)	桜台(愛知)	静岡城北(静岡)
第20回	大崎電気(埼玉)	田村紡(三重)	福岡教員(福岡)	桜台(愛知)	菊池農(熊本)
第21回	大崎電気(埼玉)	田村紡(三重)	大阪イーグルス(大阪)	明星(東京)	菊池農(熊本)

第18回大会から全種別７人制　女子は第10回大会から７人制

品質と技術を誇る

株式会社宗形製作所

本社工場，大阪府高槻市辻子241番地
TEL. 高槻 (5) 5551 (大代表) 夜間休日 5750～2
関東営業所　横浜市西区久保町49番地
TEL. 横浜 (23) 4964・9119番

大崎電気敗れる

一般女子

▽1回戦

三菱鉛筆（山形） 8（5—0, 3—2）2 高岡女高OG（富山）

〔評〕 三菱は前半大きくパスを回し、エリア内では小さなパスで得点に結びつけた。高岡は三菱ディフェンスを破れず、後半12分藤の7MTで初得点するというありさまだった。

大分府内ライオンズク（大分） 18（7—1, 11—2）3 高知西高ク（高知）

〔評〕 大分は体力、技倆ともに高知を圧倒した。大分の姫野、青木はともに4点をあげ、大分の勝利を呼んだ。高知は湯浅ががんばり、一人で3点をあげた。

寝屋川ク（大阪） 17（8—1, 9—2）3 室蘭ク（北海道）

〔評〕 寝屋川は前半速攻を展開して大差をつけた。室蘭は試合を捨てず最後までがんばったのはよかった。

東京重機（神奈川） 12（3—5, 9—4）9 全岡山

〔評〕 前半は1点を争うシーソーゲームを展開。後半の重機は山崎、斎藤の好リードで調子を出し、全岡山を押えた。重機の斎藤は7点、全岡山の渡辺は5点をあげる好プレーをみせた。

三菱鉛筆善戦す

▽準々決勝

大洋デパート（熊本） 8（7—1, 1—3）4 三菱鉛筆

「レフェリー」 柳井文治（日体大出）

得	大洋		三菱	得
0	山口	GK	吉田	0
0	小原	GK	佐々木文	0
3	新保	FP	三井田	0
0	中村	FP	鈴木	0
0	高山	FP	佐々木房	0
0	射場	FP	落合	3
0	今村	FP	佐々木洋	0
0	枝尾	FP	佐藤盛	0
0	稲田	FP	遠藤	0
0	木原	FP	江川	0
5	垂水	FP	蓮見	1
8	(0)	7MT	(1)	4

〔評〕 大洋は速攻で得点し、堅いディフェンスで三菱の攻撃を押えた。前半の三菱は動きが悪かったが、後半よくなっただけに前半の大量失点は痛かった。大洋の垂水、三菱の落合のプレーはよかった。

ライオンズ惜敗

愛知紡（愛知） 12（4—7, 8—3）10 大分府内ライオンズ・ク

「レフェリー」 北川浩（日体大出）

得	大分		愛知	得
0	中村繁	GK	尾崎	0
0	飯沼	GK	山下	0
0	中村美	FP	小林	4
3	青木	FP	黒木	0
3	手塚	FP	韮塚	0
2	姫野	FP	小野	1
0	石川	FP	関口	2
2	藤野	FP	高橋	2
0	安部	FP	近藤	0
0	成迫	FP	五十嵐	1
0	吉田	FP	前田	2
10	(4)	7MT	(3)	12

▽反則退場者〔大分〕安部

〔評〕 前半大分は鋭い切り込みで愛知紡の中央を突破、あるいは7MTでリードし優位に立った。愛知紡は後半11分に関口の7MTで9—9と同点とし、15分には小林のシュートで10—9と初めてリードした。大分は16分青木の7MTで10—10としたが、このあと愛知紡は前田、五十嵐の連続で大分を突き放した。

寝屋川ク善戦

大崎電気（埼玉） 14（6—5, 9—5）10 寝屋川ク

「レフェリー」 近藤正行（日体大出）

得	大崎		寝屋川	得
0	古谷	GK	馬淵	0
0	川崎	GK	前田	0
5	笠原	FP	北野	0
3	早川	FP	大野	2
1	宇井	FP	魚住	1
1	黒川	FP	寺前	2
5	鈴木	FP	梶原	1
0	加藤	FP	中野	0
0	堀	FP	山口	2
0	木幡	FP	坂本	0
0	小林	FP	木村	2
15	(0)	7MT	(0)	10

〔評〕 寝屋川は大いに善戦したが、大崎の速攻の前に敗れた。後半14分から18分までにみせた大崎の速攻は実にあざやかだった。この4分間に大崎は笠原が4点、黒川1点、鈴木が1点と計6点をあげて寝屋川を押えた。寝屋川はクラブチームとしてはりっぱなプレーをした。

東京重機敗れる

田村紡（三重） 19（7—3, 12—1）4 東京重機

「レフェリー」 北川浩（日体大出）

得	重機		田村	得
0	高野	GK	渡辺美	0
0	川本	GK	坂上	0
2	斎藤	FP	種村	3
0	能登	FP	渡辺好	2
1	山崎	FP	水谷	1
0	西山口	FP	小林	8
0	鷲谷	FP	内藤	3
0	畑岡	FP	清水	2
1	佐原	FP	長谷川	0
0	飯田	FP	甲村	0
0	山口	FP	吉開	0
4	(2)	7MT	(3)	19

△反則退場者〔重機〕高野

〔評〕 田村は得意の脚力を生かし、速攻の連続で東京重機を寄せつけなかった。東京重機はエースの斎藤にたよりすぎたのと、後半疲れが出て動きが鈍くなったのが敗因。

大洋勝つ

▽準決勝

大洋デパート 11（5—2, 6—4）6 愛知紡

「レフェリー」 日野博（日体大出）

得	愛知		大洋	得
0	尾崎	GK	山口	0
0	山下	GK	小原	0
0	小林	FP	新保	5
0	黒木	FP	中村	2
0	韮塚	FP	高山	1
3	小野	FP	射場	0
1	関口	FP	今村	0
1	高橋	FP	枝尾	2
0	近藤	FP	稲田	0
0	五十嵐	FP	木原	0
0	前田	FP	垂水	1
5	(1)	7MT	(2)	11

〔評〕 熊本はセットプレー、速攻で勝負したのにたいし、愛知紡は個人プレーに終始した。愛知紡はこれが命取りとなって敗れた。

田村紡快勝

田村紡 12（7—3, 5—6）9 大崎電気

「レフェリー」 中西敬一（日体大出）

得	田村		大崎	得
0	渡辺美	GK	古谷	0
0	坂上	GK	川崎	0
2	種村	FP	笠原	2
2	渡辺好	FP	早川	0
1	水谷	FP	宇井	2
4	小林	FP	黒川	1
3	内藤	FP	鈴木	3
0	清水	FP	加藤	0
0	長谷川	FP	堀	1
0	甲村	FP	木幡	0
0	吉開	FP	小林	0
12	(1)	7MT	(1)	9

〔評〕 田村紡の攻撃はすばらしかった。両サイド攻撃に徹し、10分までに5—0と一方的にリードした（このうち1点は小林の7MT）。田村紡は早いパス、フェイントパスで大崎ディフェンスをゆさぶり、すきをみてロングをとばした。大崎電気は全く手が出なかった。大崎電気は後半速攻に次ぐ速攻で12分には9—8と1点に

し、このあと7MTを得たが失敗。これが田村紡に精神的余裕を与えてしまった。田村紡は14分に小林、16分に内藤、18分30秒にも内藤がゲットして大崎電気の追撃を断ち切った。

大崎電気は縦の動きにたいするフォローが甘かったのと早川のロングが決まらず、それにポストが生かされなかったのが敗因となった。

愛知紡零敗

▽3位決定戦

大崎電気 19（9－0、10－0）0 愛知紡

「レフェリー」森豊夫（日体大出）

愛知		得
GK	尾崎	0
GK	山下	0
FP	小林	0
FP	黒木	0
FP	韮塚	0
FP	小野	0
FP	関口	0
FP	高橋	0
FP	近藤	0
FP	五十嵐	0
FP	前田	0

大崎		得
GK	古谷	0
GK	川崎	0
FP	笠原	1
FP	早川	3
FP	宇井	3
FP	黒川	3
FP	鈴木	2
FP	加藤	0
FP	堀	3
FP	木幡	1
FP	小林	3

19（2）7MT（0）0

〔評〕愛知紡のオフェンスは突っ込みのときのフォローがなく、大崎電気の小さなピストン・ディフェンスに手が出なかった。それに7MTを落とすようでは勝ち味はない。大崎は思うぞんぶん走って大勝した。3位決定戦で19－0とシャットアウトの記録が出たのも珍しい。

田村紡、走力で勝つ

▽決勝

田村紡 12（5－3、7－4）7 大洋デパート

「レフェリー」中西敬一（日体大出）

大洋		得
GK	山口	0
GK	小原	0
FP	新保	3
FP	中村	0
FP	高山	1
FP	射場	0
FP	今村	1
FP	枝尾	1
FP	稲田	0
FP	木原	0
FP	垂水	1

田村		得
GK	渡辺美	0
GK	坂上	0
FP	種村	1
FP	渡辺好	0
FP	水谷	2
FP	小林	2
FP	内藤	4
FP	清水	3
FP	長谷川	0
FP	甲村	0
FP	吉開	0

12（1）7MT（0）7

「評」田村紡は走力を生かした攻撃と大きなパス、リターンパスを併用し、ロングをとばして得点した。大洋は速攻を展開し、前半5－3。後半になっても田村紡の走力は衰えず、内藤、清水のロングが決まって大洋を破った。

優勝 第21回国民体育大会 田村紡績 ハンドボール部

田村紡績

イーグルスが優勝

教員

▽1回戦

埼玉教員（埼玉）25（9－3、16－7）10 熊本教員（熊本）

〔評〕埼玉は北井－松田のコンビで走りまくった。熊本は少し消極的だった。

山口教員（山口）25（11－8、14－9）17 長野教員（長野）

〔評〕両チームとも早い動きで元気いっぱいプレーした。長野の青木、山口の河合、藤山、中所のプレーはよかった。

埼玉、延長で敗れる

▽準々決勝

大阪イーグルス（大阪）20（12－7、5－10、0－1、3－0）18 埼玉教員

「レフェリー」安藤純光（法大出）

埼玉		得
GK	高橋	0
GK	樽川	0
FP	金子	0
FP	三枝	1
FP	松田	3
FP	北井	9
FP	多勢	2
FP	結城	2
FP	高戸	1
FP	柳原	0
FP	綿貫	0

大阪		得
GK	島崎	0
GK	光島	0
FP	松尾	2
FP	山崎	1
FP	東	1
FP	丸岡	0
FP	奥浜	0
FP	井上	4
FP	青木	9
FP	北岡	3
FP	加藤	0

20（1）7MT（1）18

▽反則退場者〔大阪〕松尾〔埼玉〕高戸（2回）

〔評〕試合巧者の大阪は前半、東を中心に速攻、ポストプレーで加点した。埼玉は後半北井、多勢の好打で追いつき延長戦。延長後半3分10秒、大阪青木の7MTで19－18と逆転に成功、タイムアップ寸前にも青木のゲットでだめ押し点をあげた。

岩手逆転勝ち

岩手教員（岩手）14（7－8、7－5）13 香川教員（香川）

「レフェリー」中西敬一（日体大出）

岩手		得
GK	佐々木	0
GK	西	0
FP	梅野	0
FP	川守田	0
FP	宮野	0
FP	高田	1
FP	加藤	0
FP	足沢	2
FP	小原	0
FP	増田	11

香川		得
GK	片岡	0
GK	藤沢	0
FP	蓮井	1
FP	石原	5
FP	岡内	3
FP	今田	0
FP	松原	0
FP	藤井	4
FP	大林	0
FP	田中	0
FP	山地	0

13（1）7MT（1）14

〔評〕後半12分で香川は13－8とリードしていたが、岩手は増田にボールを集めて打たせたのが成功した。増田は15分40秒、16分、17分10秒、27分30秒と連続5点をあげて13－13とし、29分足沢のシュートで逆転勝ちした。

個人別得点

▽一般男子ベスト10

		試	得
1.	加藤（住友化学）	5	35
2.	山本（氷見ク）	5	29
3.	北山（住友化学）	5	28
4.	越智（宗形製作）	5	24
5.	高橋（氷見ク）	5	19
6.	関（氷見ク）	5	18
6.	長嶺（住友化学）	5	18
8.	久保（宗形製作）	5	17
8.	竹野（大崎電気）	5	17
8.	辻（宗形製作）	5	17

▽一般女子ベスト5

		試	得
1.	小林（田村紡）	3	14
2.	新保（大洋）	3	11
3.	鈴木（大崎電気）	3	10
3.	内藤（田村紡）	3	10
5.	笠原（大崎電気）	3	8

▽教員ベスト5

		試	得
1.	増田（岩手）	3	33
2.	青木（大阪）	3	27
3.	中釜（大分）	3	26
4.	石榑（岐阜）	3	19
5.	豊島（岐阜）	3	13

▽高校男子ベスト5

		試	得
1.	藤島（鶴崎工）	3	17
2.	森（桜台）	3	15
3.	田中（伏見工）	3	13
3.	中井（伏見工）	3	13
3.	飼沼（桜台）	3	13

▽高校女子ベスト5

		試	得
1.	渡辺（菊池農）	3	18
2.	久保田（法）（静岡城北）	3	11
3.	松野（菊池農）	3	10
4.	斎藤（静岡城北）	3	6
4.	牧野（秋田和洋）	3	6

函館教員敗れる

大分教員（大分）23（7－8 16－7）15 函館教員（北海道）

「レフェリー」安藤純光（法大出）

得	函館		大分	得
0	大石	GK	柿崎	0
0	長谷川	GK		
0	滝本	FP	中釜	9
0	山本	FP	諫山	4
5	八重樫	FP	佐藤	5
6	川上	FP	福田	0
3	新橋	FP	清水	1
0	宮崎	FP	湯浅	4
0	伊藤	FP	友永	0
0	石井	FP	吉良	0
1	近藤	FP	安達	0
15	(0)	7MT	(0)	23

▽反則退場者〔函館〕八重樫

〔評〕函館は前半速攻でリードした。大分は後半開始直後の速攻から佐藤のシュートがよく決まり、3分には早くも9－8とリードを奪い返し、その後も速攻をかけて函館をふりきった。

岐阜実力勝ち

岐阜教員（岐阜）32（16－4 16－9）13 山口教員

「レフェリー」中西敬一（日体大出）

得	山口		岐阜	得
0	中森	GK	大平	0
0	末富	GK	鈴木	0
2	田上	FP	石樽	9
0	横瀬	FP	森川	0
3	河合	FP	杉本	5
1	増田	FP	豊島	6
1	常田	FP	羽上田	7
2	藤山	FP	高島	1
1	中瀬	FP	犬飼	1
0	松原	FP	尾藤	1
3	中所	FP	大洞	2
13	(0)	7MT	(0)	32

▽反則退場者〔山口〕中所

〔評〕実力の差がはっきりした試合。岐阜は走力、パスワーク、シュート力とすべての面ですぐれていた。山口は岐阜のディフェンスをくずせず、無理な位置からのシュートでチャンスをつぶした。

大阪やっと勝つ

▽準決勝

大阪イーグルス 30（14－8 8－14 2－2 6－1）25 岩手教員

「レフェリー」森豊雄（日体大出）

得	大阪		岩手	得
0	島崎	GK	佐々木	0
0	光島	GK	西	0
2	松尾	FP	梅野	0
0	山崎	FP	川守田	0
2	丸岡	FP	宮野	4
1	東	FP	高田	5
2	奥浜	FP	加藤	0
4	井上	FP	足沢	0
8	青木	FP	小原	0
4	北岡	FP	増田	16
7	加藤	FP		
30	(1)	7MT	(3)	25

▽反則退場者〔岩手〕増田

〔評〕延長後半1分に岩手は高田のゲットで25－24とリードしたが、大阪はこのあと井上のシュートをはじめ青木、松尾らが連続6点をあげてやっと岩手を押えた。それにしても岩手の増田はこの試合でも16点をあげる大活躍をみせた。

岐阜教員 15（8－6 7－6）12 大分教員

「レフェリー」岡井幸由（日体大出）

得	岐阜		大分	得
0	大平	GK	柿崎	0
0	鈴木	GK	亀谷	0
2	石樽	FP	中釜	7
0	森川	FP	諫山	0
2	杉本	FP	佐藤	1
6	豊島	FP	福田	1
3	羽上田	FP	清水	1
0	高島	FP	湯浅	2
0	犬飼	FP	友永	0
1	尾藤	FP	吉良	0
1	大洞	FP	安達	0
15	(0)	7MT	(5)	12

▽反則退場者〔大分〕福田〔岐阜〕杉本

〔評〕大分の消極的な攻撃にたいし、岐阜は終始積極的に出て大分を破った。この試合は岐阜のラフプレーが目立ち、大分は7MTで5点をあげた。

大分3位に

▽3位決定戦

大分教員 25（10－5 15－7）12 岩手教員

「レフェリー」安藤純光（法大出）

得	岩手		大分	得
0	佐々木	GK	柿崎	0
0	西	GK	亀谷	0
0	川守田	FP	中釜	10
2	宮野	FP	諫山	2
2	高田	FP	佐藤	6
0	加藤	FP	福田	1
1	足沢	FP	清水	1
1	小原	FP	湯浅	5
6	増田	FP	友永	0
0	梅野	FP	吉良	0
		FP	安達	0
12	(2)	7MT	(3)	25

▽反則退場者〔大分〕友永〔岩手〕加藤

〔評〕増田一人の岩手にたいし地元の大分は個人プレーでなんとか得点し、3位になった。岩手は惜しくも4位となったが、そのプレーは大いに賞されていい。とくに増田はすばらしかった。

岐阜善戦及ばず

▽決勝

大阪イーグルス 21（11－8 10－10）18 岐阜教員

「レフェリー」中沢重夫（芝浦工大出）

得	岐阜		大阪	得
0	大平	GK	島崎	0
0	鈴木	GK	光島	0
8	石樽	FP	松尾	0
1	森川	FP	山崎	1
5	杉本	FP	丸岡	0
1	豊島	FP	東	2
1	羽上田	FP	奥浜	0
1	高島	FP	井上	3
0	犬飼	FP	青木	10
1	尾藤	FP	北岡	0
0	大洞	FP	加藤	5
18	(3)	7MT	(1)	21

〔評〕大阪は個人の特徴を生かした攻撃で岐阜を押えた。とくに青木、井上の確実なシュートはさすがだった。岐阜は前半、大阪のペースにはまり、速攻が出なかった。それでも後半大いに食い下がって大阪を苦しめたが、やはり試合なれした大阪のプレーに屈してしまった。

桜台雪辱ならず

高校男子

▽1回戦

盛岡一（岩手）19（9—4 10—5）9 新居浜工（愛媛）

〔評〕新居浜工は動きが鈍く、パスミスが多かった。盛岡一はオープン攻撃とカットからの速攻で一方的に勝った。

上田（長野）17（4—7 9—6 2—0 2—2）15 宇部工（山口）

〔評〕上田は延長後半4分に柏木がシュートして16—15とし、タイムアップ寸前にも柏木がゲットして宇部をくだした。柏木はこの試合で10点をあげた。宇部工も最後までがんばり、伊達が6点、河野が5点をあげた。

盛岡一、敗れる

▽準々決勝

桜台（愛知）14（7—3 7—3）6 盛岡一

「レフェリー」財前久範（日体大出）

得	桜台		盛岡	得
0	杉山	GK	加藤	0
0	吉田光	GK	水野	0
2	吉田洋	FP	石川	0
1	阪野	FP	三沢	2
5	飼沼守	FP	近藤	1
1	新実	FP	宇土	1
0	竹内	FP	堀合	2
4	森	FP	岩佐	0
1	福島	FP	高橋	0
0	清水	FP	熊谷	0
0	飼沼敏	FP	小原	0
14	(1)	7MT	(2)	6

〔評〕キャリアのある桜台は終始リードを保った。盛岡はセットプレーで桜台に善戦したが、もう少し切り込みがほしかった。

函館東善戦

鶴崎工（大分）15（7—3 8—6）9 函館東（北海道）

「レフェリー」中沢重夫（芝浦工大出）

得	函館		鶴崎	得
0	飛山	GK	伊東	0
		GK	小手川昭	0
1	田中	FP	小手川満	0
2	岩本	FP	安達	3
1	小西	FP	橋	2
1	三国	FP	宮井	1
3	斎藤	FP	田中	1
0	師岡	FP	藤島	8
1	五味沢	FP	阿部	0
0	土井	FP	斎藤	0
0	菊池	FP	金若	0
9	(2)	7MT	(3)	15

▽反則退場者〔函館東〕岩本

〔評〕函館東は横から縦への切り込みがなく、横への動きのみだったので鶴崎ディフェンスにつぶされていた。鶴崎は地元の利、観衆の大声援を受けて走りまくり、GK伊東のファインプレーもあって快勝した。

熊本市商敗れる

伏見工（京都）17（6—6 11—5）11 熊本市商（熊本）

「レフェリー」柳井文治（日体大出）

得	熊本		伏見	得
0	清水	GK	中沢	0
0	柳川	GK	池田	0
1	鈴木	FP	石徳	0
2	榊	FP	河原	4
1	室岡	FP	田中	4
0	松原	FP	中井	6
2	伊藤	FP	小西	3
5	井上	FP	野崎	0
0	谷口	FP	鈴木	0
0	古沢	FP	広野	0
0	竹下	FP	白丸	0
11	(1)	7MT	(3)	17

▽反則退場者〔熊本〕谷口、鈴木

〔評〕両チームともミスが多く、そのうえ反則も多かった。後半伏見工は中井、河原、田中の好打で熊本市商を破った。熊本市商は井上を中心にがんばったが、およばなかった。

上田がんばる

明星（東京）23（13—3 10—5）8 上田

「レフェリー」財前久範（日体大出）

得	上田		明星	得
0	吉田	GK	原田	0
0	山浦	GK	中島	0
1	関森	FP	田中	1
1	藤森	FP	氷海	5
0	高橋	FP	高橋	4
2	武井	FP	内藤	3
4	柏木	FP	荒井	3
0	村松	FP	木全	4
0	塩川	FP	須藤	0
0	清水	FP	佐々木	1
0	渡辺	FP	高梨	2
8	(2)	7MT	(0)	23

〔評〕明星の速攻、上田の遅攻と対照的なチーム。上田は前半17分まで5—4と1点差まで食い下がったが、これが精いっぱい。明星はピッチをあげて加点し、後半も思うぞんぶん走りまくった。

鶴崎工惜敗

▽準決勝

桜台 15（9—7 6—7）14 鶴崎工

「レフェリー」岡本英彰（日体大出）

得	桜台		鶴崎	得
0	杉山	GK	伊東	0
0	吉田光	GK	小手川昭	0
2	吉田洋	FP	小手川満	0
1	阪野	FP	安達	2
6	飼沼守	FP	橋	0
1	新実	FP	宮井	4
0	竹内	FP	田中	2
4	森	FP	藤島	6
1	福島	FP	阿部	0
0	清水	FP	斎藤	0
0	飼沼敏	FP	金若	0
15	(5)	7MT	(7)	14

▽反則退場者〔桜台〕新実

〔評〕鶴崎工の善戦はすばらしかった。それだけに1点差で敗れたのは惜しい。後半15分まで14—8と桜台がリード。このまま勝負がつくと思ったほど。鶴崎は16分田中が7MTを決めてから22分までに6点をあげ15—14と1点差。試合はこの1点差を争っておもしろくなった。しかし桜台はがっちりとディフェンスを固め、そのまま逃げ切りに成功した。この試合はプレーが荒く、7MTで得点したのは桜台5点、鶴崎工7点である。鶴崎工の藤島があげた6点は全部7MTによるものである。

伏見工も善戦

明星 14（7—6 7—6）12 伏見工

「レフェリー」中沢重夫（芝浦工大出）

得	伏見		明星	得
0	中沢	GK	原田	0
0	池田	GK	中島	0
1	石徳	FP	田中	1
3	河原	FP	氷海	0
6	田中	FP	高橋	0
2	中井	FP	内藤	6
0	小西	FP	荒井	2
0	野崎	FP	木全	1
0	鈴木	FP	須藤	0
0	広野	FP	佐々木	0
0	白丸	FP	高梨	4
12	(2)	7MT	(0)	14

〔評〕得点の割りは盛り上がりのない試合。明星は単発的に出る速攻が点につながり、セットのときもサイドとポストをうまく利用して加点した。伏見はセットで対抗したが、思うように点にならなかった。伏見はもう少し走った方がよかったのではないか。

伏見工3位に

▽3位決定戦

伏見工 19（6—4 13—9）13 鶴崎工

「レフェリー」日野博（日体大出）

得	鶴崎		伏見	得
0	伊東	GK	中沢	0
0	小手川昭	GK	池田	0
3	小手川満	FP	石徳	0
0	安達	FP	河原	1
4	橋	FP	田中	3
1	宮井	FP	中井	5
2	田中	FP	小西	2
3	藤島	FP	野崎	3
0	阿部	FP	鈴木	5
0	斎藤	FP	広野	0
0	金若	FP	白丸	0
13	(3)	7MT	(2)	19

▽反則退場者〔鶴崎工〕小手川満、安達

〔評〕伏見工はポストプレーで、鶴崎工は速攻で試合を進めが。前半は伏見工がリードした、後半2分までに鶴崎工は小手鶴満の好打で6―6とした。だが川崎工はセット・オフェンスで横スパが多く、これを伏見工にカットされ、そのまま速攻を許してしまった。これが鶴崎工の大きな敗因となった。

桜台の追撃むなし

▽決勝

明　星 14 (9―5 / 5―7) 12 桜　台

「レフェリー」岡井幸由（日体大出）

得	桜台		明星	得
0	杉山	GK	原田	0
0	吉田光	GK	中島	0
0	吉田洋	FP	田中	0
1	阪野	FP	氷海	1
2	飼沼守	FP	高橋	3
2	新実	FP	内藤	0
0	竹内	FP	荒井	3
7	森	FP	木全	3
0	福島	FP	須藤	2
0	清水	FP	佐々木	0
0	飼沼敏	FP	高梨	2
12	(3)	7MT	(3)	14

〔評〕夏のインターハイ決勝は8―5で明星が勝っている。桜台にとっては雪辱戦――優勝を意識してか両チームとも立ち上がりから堅くなっていた。このためセットプレーに終始した。しかしセットプレーでは明星の方が一枚上。桜台は中央突破をねらう個人プレーになりがち、しかも無理な体勢からのシュートで得点に結びつかなかった。これが敗因といっていい。

桜台は後半14分新実のシュートで一度は10―10とタイに追いついたが、15分氷海、16分荒井に打たれて12―10と2点差をつけられてしまった。17分森のシュートで12―11と1点差にしたものの、すぐ氷海、高梨に連続得点を許し、万事休した。

明星の勝因は早い帰陣で桜台得意の速攻をつぶしたことである。

明星高

静岡城北優勝ならず

高校女子

▽1回戦

有　磯（富山）7 (1―2 / 6―2) 4 大分東（大分）

〔評〕有磯は前半速攻のとき、ミスを繰り返してリードされたが、後半速攻、ポストプレーで逆転した。大分は日ごろの力を発揮できず敗れた。

大　谷（大阪）8 (3―5 / 5―2) 7 室蘭商（北海道）

〔評〕室蘭商は後半16分30秒松原のゲットで8―7と1点差に詰め寄ったが、大谷の好守にあって追いつけなかった。室蘭の姫野、松原、大谷の凪のプレーはよかった。

有磯惜敗

▽準々決勝

秋田和洋（秋田）5 (1―1 / 4―2) 3 有　磯

「レフェリー」近藤正行（日体大出）

得	和洋		有磯	得
0	武田	GK	新井	0
0	宮原	GK	坂本	0
0	川尻	FP	紅谷	2
0	根	FP	鎌仲	0
2	阿部	FP	山下	0
0	高橋	FP	林（民）	0
1	佐々木	FP	辻	1
2	牧野	FP	早藤	0
0	木村	FP	林（外）	0
0	加藤	FP	上	0
0	伊藤	FP	嶋田	0
5	(0)	7MT	(0)	3

〔評〕後半2分までに和洋は牧が連続の点をあげて3―1とした。有磯も4分に紅谷がゲットして3―2と1点差。和洋はこのあと有磯の好守備に追加点をはばまれていたが、12分阿部の好打で4―2。有磯も13分辻がシュートして4―3。和洋は17分30秒阿部のゲットでダメ押し点をあげ、そのまま有磯を押した。

新居浜西善戦

静岡城北（静岡）14 (7―2 / 7―6) 8 新居浜西（愛媛）

「レフェリー」辻一義（日体大出）

得	新居浜		静岡	得
0	北尾	GK	松田	0
0	松元	GK	鈴木（け）	0
0	石川	FP	山田	2
3	明坂	FP	斎藤	2
2	石山	FP	久保田（法）	7
0	藤田	FP	石上	2
3	合田	FP	鈴木（す）	0
0	塩崎	FP	久保田（敏）	1
0	岡田	FP	伊藤	0
0	近田	FP	鈴木（悦）	0
0	小野	FP	西川	0
8	(2)	7MT	(5)	14

〔評〕新居浜西の善戦が光った。新居浜はロングからポストへの攻撃のつなぎ方をもう少し研究すればいいと思う。

栃木女、速攻で勝つ

栃木女（栃木）5 (4―1 / 1―1) 2 山陽女（広島）

「レフェリー」岡本克彰（日体大出）

チーム得点

▽一般男子

1.	住友化学	104
1.	氷見ク	104
3.	大崎電気	93
4.	宗形製作	92

▽一般女子

1.	田村紡	43
1.	大崎電気	43
3.	大洋	26
4.	愛知紡	18

▽教　員

1.	イーグル	71
2.	岐阜	65
3.	大分	60
4.	岩手	51

▽高校男子

1.	明星	51
2.	伏見工	48
3.	鶴崎工	42
4.	桜台	41

▽高校女子

1.	菊池農	29
2.	静岡城北	26
3.	秋田和洋	16
4.	栃木女	12

〔注〕いずれも準決勝進出チーム

	山陽	得	栃木	得
GK	中下	0	長島	0
GK	横正	0	新村	0
FP	坂田	0	富田	1
FP	才崎	0	赤塚	1
FP	加治	0	森川	0
FP	滝口	2	古橋	1
FP	嶋田	0	村井	1
FP	藤池	0	大出	0
FP	池田	0	日向野	0
FP	七瀬	0	刑部	1
FP	金江	0	小島	0

5（1）7MT（0）2

〔評〕両チームとも攻撃に積極さがなく、内容の乏しいゲームとなった。栃木女は山陽女のパスミスからチャンスをつかみ、速攻をかけて勝った。

大谷敗れる

菊池農（熊本）14（6―4 / 8―4）8 大谷

「レフェリー」辻一義（日体大出）

	菊池	得	大谷	得
GK	中田	0	山本	0
GK	中川	0	中路	0
FP	松野	5	小林	0
FP	渡辺	8	相川	0
FP	谷口	1	橋本	1
FP	和田	0	楠	0
FP	浜中	0	凪	3
FP	山隈	0	福田	4
FP	蔵田	0	西崎	0
FP	村中	0	林	0
FP	鶴田	0	長島	0

8（4）7MT（3）14

〔評〕大谷は敗れはしたが、忠実なプレー、最後まで得点機をつかもうとするファイトはほめていい。菊池は渡辺の好プレーが光った。大谷の福田、凪も好選手である。

静岡城北雪辱

▽準決勝

静岡城北 7（4―3 / 3―2）5 秋田和洋

「レフェリー」岡本克彰（日体大出）

	静岡	得	和洋	得
GK	松田	0	武田	0
GK	鈴木（け）	0	宮原	0
FP	斎藤	4	川尻	1
FP	山田	0	根	0
FP	久保田（法）	1	阿部	0
FP	石上	1	高橋	1
FP	鈴木（す）	0	佐々木	1
FP	久保田（敏）	0	牧野	2
FP	西川	0	木村	0
FP	伊藤	1	加藤	0
FP	鈴木（悦）	0	伊藤	0

5（0）7MT（1）7

〔評〕静岡城北は夏のインターハイ準々決勝で9―8と1点差で敗れている。静岡城北にとっては雪辱戦。両チームともミスが少なく、好試合だった。後半の和洋は心理的に少々弱くなった面があり、そこを静岡城北に乗ぜられてしまった。

菊池農決勝へ

菊池農 7（2―2 / 5―0）2 栃木女

「レフェリー」辻一義（大出）

	菊池	得	栃木	得
GK	中田	0	長島	0
GK	中川	0	新村	0
FP	松野	2	富田	1
FP	渡辺	5	赤塚	0
FP	谷口	0	森川	0
FP	和田	0	古橋	0
FP	浜中	0	村井	0
FP	山隈	0	大出	0
FP	蔵田	0	日向野	0
FP	村中	0	刑部	0
FP	鶴田	0	小島	1

2（0）7MT（1）7

〔評〕栃木女は前半互角に試合を進めたが、後半菊池の渡辺をマークできず、渡辺に打たれて敗れた。栃木女に思い切ったプレーがあれば、おもしろかったと思う。

和洋3位に

▽3位決定戦

秋田和洋 6（4―4 / 2―1）5 栃木女

「レフェリー」近藤正行（日体大出）

	栃木	得	和洋	得
GK	長島	0	武田	0
GK	新村	0	宮原	0
FP	富田	0	川尻	0
FP	赤塚	0	根	0
FP	森川	1	阿部	1
FP	古橋	2	高橋	2
FP	村井	0	佐々木	0
FP	大出	0	牧野	2
FP	日向野	1	木村	0
FP	刑部	0	加藤	0
FP	小島	1	伊藤	1

6（1）7MT（0）5

〔評〕両チームとも最後まで堅さがとれず、試合は凡戦となった。4―4から後半8分栃木に日向野のゲットで5―4とリードしたが、和洋は14分30秒高橋のシュートで5―5と追いつき、16分30分秒伊藤が決勝のシュートを決めて栃木を破った。

菊池農勝つ

▽決勝

菊池農 8（5―4 / 3―1）5 静岡城北

「レフェリー」岡本克彰（日体大出）

	城北	得	菊池	得
GK	松田	0	中田	0
GK	鈴木（け）	0	中川	0
FP	斎藤	0	松野	3
FP	山田	2	渡辺	5
FP	久保田（法）	3	谷口	0
FP	石上	0	和田	0
FP	鈴木（す）	0	浜中	0
FP	久保田（敏）	0	山隈	0
FP	西川	0	蔵田	0
FP	伊藤	0	村中	0
FP	鈴木（悦）	0	鶴田	0

8（1）7MT（1）5

〔評〕気力、技術ともに充実した試合を展開した。静岡は後半開始直後に久保田（法）の7MTで5―5と追いついたが、このころから消極的となり、タイムアップまで得点できなかった。一方菊池は渡辺に打たせたのが成功し、松野もチャンスをのがさず打って静岡を押えた。

菊池農高

多かった負傷者
基本に忠実であれ

男子総評

小袋是郎氏

【一般男子】

連続五連勝の大崎電気を破るチームはどこか。どのチームが大崎電を苦しめるか。これが本大会の焦点の一つであった。しかし大崎電気は準々決勝で全神奈川に苦戦はしたものの重厚なチーム力で他を圧倒し、抜群の実力を発揮して6連勝を飾った。他のチームにも個々の名プレーヤーはいたが、他の種目に比べて、豊富な練習のできる条件のチームが少なかった。

速い足と強い肩は、ハンドボールの第一の要素であるが、練習不足のためか脚力や投力が非常に弱く、ハンドボールのだいご味であるパス・アンド・ラッシュ戦法が見られなかった。胸のすく豪快なロングシューターも少なく、個人プレーにたよりすぎでエリア前の乱戦の多かったことは、ゲーム内容に乏しく寂しいものであった。脚力が弱いため不必要なプレーが多く、ゲームが荒くなって負傷者の多かったことは一考を要する。今後の精進を期待したいものである。

【教員男子】

勝つべき要素はあっても、優勝することがいかにむずかしいことであるかを教えてくれたのがこの種目である。率直にいって優勝の大阪イーグルは「とらえどころのないチーム」であった。さきに来日した中国戦で、いままでになくチーム力が充実し、大接戦をやったあとの国体だけにワンサイドゲームが予想された。

しかし国体という気安さのためか、ゲームのうえにピリッとしたものが感じられなかった。優勝することは「基本に忠実である」ということを除けば、魅力に乏しいチームであった。2回戦で惜しくも大魚を逸した埼玉教員は荒削りではあったが、個性の強い選手をそろえ、それなりの魅力を備えていた。強固なチームワークとエース増田を中心とし、全員がよく動いて強豪大阪に善戦した岩手教員は実にりっぱだった。

【高校男子】

全国高校選手権大会のように高校生らしいのびのびとしたプレーが見られず、ブロック別に実力の格差がひどすぎた感じであった。初優勝の明星、二位の桜台は実によく訓練されたチームである。高校チームは若さが魅力である。今後の高校に望みたいことは、ハンドボールには小手先の器用さではなく、基本にたいしてあくまで忠実であることを心がけてもらいたい。それは「速く走ること」「正確に投げること」「一つのボールに精神を傾注すること」である。

明星や桜台が備えている「走るハンドボール」の技術を、他の選手諸君あるいはチーム全体が体得するまでには時間がかかると思われるが、小手先の器用さはあっても基本を無視しがちな高校チームは、本大会を機会に発奮し「走るハンドボール」の完成へ総力を結集してもらいたい。〔競技副委員長〕

◇　◇　◇

藤田八郎氏

りっぱだった寝屋川ク
女子総評　故意な反則やめよ

【一般女子】

実業団チームから優勝チームが出るだろうと予想はついたが、田村紡が決勝で大洋デパートを破って見事優勝し、二連勝した。

一回戦は実業団チームとクラブチームとの対戦で、練習量の差でクラブチームが敗れたのはやむをえまい。しかし寝屋川クラブはクラブチームとしてよくまとまり、大崎電気に善戦したことは、クラブチームとしてりっぱであった。

地元大分府内ライオンズクラブも選手強化に力を入れ、りっぱなチームになった。

二回戦で愛知紡に敗れたのは惜しい。準決勝は二試合とも熱のはいった好試合。とくに優勝した田村紡は全員技倆にムラがなく、よく走り、中ロングのシュートモーションが非常に早く、見事なチームプレーが深く印象に残った。

【高校女子】

インターハイの成績から見て、各チームとも技倆が接近しているので混戦模様になるだろうと思っていたが、そのとおり一回戦から1点を追う好ゲームが多かった。

準決勝でインターハイ優勝の秋田和洋が静岡城北に敗れる波瀾があり、決勝は菊池農が静岡城北を見事破って優勝し、国体二連勝を遂げたのはほめていい。菊池農の勝利はチームワークがよく、遅攻、速攻をうまく使い分け、それに超高校級の渡辺須和子の強力なシュート力が勝因といえる。

全般的に各チームとも攻撃面における速攻、遅攻、ポストプレー、ロングシュートとの切り替えを考え、技術的に非常によくなったと思うが、防御面で故意な反則が多かった。防御者が抜かれたあとから無理な体当たり的ディフェンスをやる者が多く、退場者や負傷者が多かったように思う。この点はじゅうぶん注意してもらいたい。〔大会副審判長〕

★　★　★

時評

男女開催に期待
ミュンヘン・オリンピック

近着のＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）の公報によると、注目すべき提案事項が二、三あった。それは①１９７０年に開く男子７人制世界選手権大会のベスト８は、無条件で１９７２年のミュンヘン・オリンピック大会の出場資格を得る②世界選手権大会の周期を現行の三年から四年とする③女子の試合時間を現行の20分から25分とする―などである。いままでにないほどの大胆な提案事項である。これがそのまま実施されるとなれば、それこそビッグニュースである。

①について考えてみよう。ミュンヘン・オリンッピクのハンドボール要項が決まっていないので、なんとも言えないが、東京オリンピックのバレーボールを例にとると、男10、女6である。ハンドボールがバレーボールの同じように男10、女6になることも予想される。ただこの公報によると、男子16チームとはっきりいっている。これを裏付けするかのように「男子世界選手権大会のベスト8にオリンピック出場資格を与える」という文句がどうも気にかかる。もしそうなると、残り8チームの選手は大陸別の予選勝者という計算になる。

バスケットボール（男子）を例にとると、メキシコ・オリンピックの場合は、東京オリンピックのベスト8、メキシコ・オリンピックの前年に開かれる世界選手権大会の上位2位までの計10チームにオリンピック出場の資格を与える。残り6チームは参加希望国によって争われる。オリンピックのベスト8と世界選手権大会の上位2チームの中で、もしダブったチームがあれば、世界選手権大会の3位以下のチームを順次繰り上げることになっている。バスケットボールには女子の試合がない。ハンドボールにも女子の試合がない。ハンドボールが、男女開催となれば、東京オリンピックのバレーボール方式となろう。ＩＨＦは西ドイツ・オリンピック委員会に男女開催を申し入れるという。これに期待し、吉報を待とう。

②の世界選手権大会開催の周期を四年にすることは、それほど問題はない。もし四年にするなら、大会開催年はオリンピック中間年となるのではないか。ひょっとしたらオリンピックの前年ということも考えられる。もし男女ともオリンピック開催となれば、オリンピックの前年に男女の世界選手権大会ということになる。世界選手権でオリンピックチームを選出するか。

③の女子の試合時間を25分にする件は、おそらくすんなり決まるのではないか。陸上競技の女子八百メートルがオリンピックその他の国際試合で採用されているくらいだから、女子の試合を25分にするのは技術的にむずかしいとは思われない。（了）

楽書き帖

ＮＨＫとハンドボール

鴛尾武治

○…第21回国体の開会式をＮＨＫテレビで見ていた。開会式というものは、いつ見てもいいものだ。アナウンサーが各県チームを紹介する。私はアナウンサーの声に耳をすまして聞いていた。いつ、どこで〝ハンドボール〟ということばがとび出るか。先頭の北海道、次いで大崎電気を送り出している埼玉県、インターハイに次いで高校男子優勝をねらう明星を有する東京都が入場する。なかなか〝ハンドボール〟ということばは出てこない。静岡県、愛知県を経てやっと出てきた。それは三重県のときだ。アナウンサーの声がひときわ大きい。「ハンドボールで二連勝をねらう田村紡績…」とスピーカーから流れてきた。このときはくい入るようにして画面を見つめた。またハンドボールの全国中継を期待していたが、これは実現しなかった。ただ「この時間、九州地方はハンドボールをお送りします」と予告し、九州管内だけの中継に終わったのは惜しかった。九州代表の菊池農高（大分）の出場とあっては仕方あるまい。

○…10月30日午前9時にＮＨＫ教育テレビのスイッチを入れた。スポーツ教室「ハンドボール」の時間で、10時までの1時間である。これはＮＨＫが各スポーツを取り上げているもので、11月6日にその続きが放映された。ＮＨＫ名古屋中央放送局の取材である。桜台高の選手がタレントとなり、初歩的な技術を細かく分析していた。解説は桜台高監督の稲石三二君。稲石君は、だれにでもよくかわるように解説していた。わがセガレ（小学三年）いわく「ハンドボールって、ずいぶん簡単なんだなー。僕にもできそうだ。学校でやっているポートボールによく似ている」と……。それはさておき、この1時間のテレビを、いったい何人のハンドボール関係者が見たか。愛知県下の人たちは見ていたことだろう。指導者に恵まれない北海道、東北、山陰地方の人たちが見ていたとしたら、大きなプラスになったと思う。このテレビ放送を見た人がもいたら、その感想をぜひ聞かせてほしい。山陰地方の某高校チームは、本誌の「海外ジャーナル」を手本にして練習をしているという。このチームがこのテレビを見たとしたら、来シーズンはかなりうまくなってくるのではないか。

○…ＮＨＫはハンドボールにたいして非常に好意的である。ＮＨＫ名古屋の杉山君、原田君をはじめ、大分放送局の奥田君、福井放送局の宇津野君などハンドボール出身者がいるのもありがたい。とくに杉山君は、全国の放送局を通じて地方のハンドボール記録を克明に集めている。また本誌の「ハンドボール球史」も執筆しているが、その資料の正確なことは実にりっぱである。ありがたいことである。

（了）

関東学生秋季リーグ

立大、7度目の優勝

女子は日体大が12連勝

10月～11月・駒沢

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦は10月16日から11月6日まで東京・駒沢第一球技場で開かれた。男子一部は予想どおり立大、芝浦工大の争いとなり、立大が芝浦工大を17－14で破って2連勝、通算7度目の優勝を飾った。立大が秋に優勝したのは26年いらい15年ぶりである。また芝浦工大は31年いらい続いていた秋季リーグ戦優勝は10年連続にとどまった。今シーズンの早大、慶大は好プレーの連続でAクラスに進出したのが目立った。二部は法大対日大で優勝決定戦をやり、法大が優勝した。三部は国士館大が、春に次いで優勝した。女子は今シーズンから東京学芸大、国士館大が新加盟して5チームとなり、総当たりリーグ戦を行なった。この結果、日体大が勝って36年春いらい12連勝、通算16回目の優勝をとげた。〔カット写真は芝浦工大対教大戦から〕

早慶が待望の上位進出

〔一部〕

明大善戦

▽10月16日

立大 21（9－6 12－6）12 早大

芝浦工大 26（14－9 12－6）15 慶大

日体大 17（9－8 8－6）14 明大

教大 25（13－7 12－6）13 中大

芝浦工大辛勝

▽22日

日体大 19（10－7 9－9）16 教大

中大 25（12－10 13－5）15 明大

芝浦工大 15（8－7 7－6）13 早大

〔評〕山田を欠いた芝浦工大は、いつものような連続プレーがなく苦戦した。早大は早いボールの離しから鋭く縦に切り込み、すばらしい試合を展開した。早大の善戦。

	早大	得	芝浦	得
GK	綿貫	0	伊藤	0
GK	尾形	0	山村	0
FP	森田	3	近藤	5
FP	水口	5	岩崎	2
FP	朝日	1	関根	3
FP	伊藤	0	片山	0
FP	籏野	1	高鍬	0
FP	荻原	2	近森	2
FP	小島	1	竹内	1
FP	森永	0	小林	0
FP	亀山	0	白神	2

13（1）7MT（1）15

立大 23（12－7 11－2）9 慶大

早大、日体大を破る

▽23日

早大 12（7－3 5－8）11 日体大

〔評〕1点を争う好ゲーム。両チームともディフェンスが荒かった。日体大は細かい技術で攻めたが決め手がなかった。早大は後半23分籏野のゲットで日体大を押えた。

	早大	得	日体	得
GK	綿貫	0	佐藤	0
GK			加藤	0
FP	森田	1	神谷治	0
FP	水口	2	木村	1
FP	朝日	0	井上	0
FP	伊藤	0	神谷葭	1
FP	籏野	2	大宮	2
FP	荻原	6	樫塚	0
FP	水島	1	福井	1
FP	森永	0	高橋	3
FP	亀山	0	早川	3

12（2）7MT（1）11

慶大 11（9－5 2－4）9 中大

芝浦工大 17（8－7 9－6）13 教大

	慶大	得	中大	得
GK	山田	0	竹下	0
GK	西川	0	山崎	0
FP	花野	4	渡辺	0
FP	石橋	1	山中	2
FP	安達	2	森山	0
FP	田中	2	熊本	0
FP	小椋	2	喜田	3
FP	梶井	0	佐野	2
FP	米田	0	宮崎	0
FP	尾崎	0	城	1
FP	古村	0	植木	1

11（1）7MT（0）9

〔評〕中大は前半速攻で得点したが、後半になると慶大ディフェンスを攻めあぐんだ。慶大は速攻、遅攻をうまくミックスさせ、小椋、田中、石橋のシュートで中大を破った。

立大 15（9－7、6－3）10 明大

慶大、日体大に勝つ

▽29日

芝浦工大 17（10－6、7－2）8 明大

早大 11（4－3、7－5）8 中大

慶大 18（10－8、8－8）16 日体大

慶大	得		日体	得
山田	0	GK	佐藤	0
西川	0	GK	加藤	0
古村	1	FP	神谷治	0
花野	6	FP	井上	1
石橋	4	FP	神谷葭	4
安達	2	FP	大宮	5
田中	0	FP	樫塚	0
小椋	5	FP	福井	3
米田	0	FP	大原	0
梶井	0	FP	高橋	2
峰村	0	FP	早川	1

16（2）7MT（1）18

〔評〕 慶大は自己のペースに日体大を巻き込んで勝った。慶大は小椋、花野、石橋の好プレーが光った。

関東学生秋季リーグ一部成績

	立大	芝大	早大	慶大	教大	日体	中大	明大	試合	勝数	負数
1. 立大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	7	0
2. 芝浦工大	●	×	○	○	○	○	○	○	7	6	1
3. 早大	●	●	×	○	●	○	○	○	7	4	3
3. 慶大	●	●	●	×	○	○	○	○	7	4	3
5. 教大	●	●	○	●	×	●	○	○	7	3	4
5. 日体大	●	●	●	●	○	×	○	○	7	3	4
7. 中大	●	●	●	●	●	●	×	○	7	1	6
8. 明大	●	●	●	●	●	●	●	×	7	0	7

立大 26（11－12、15－5）17 教大

教大勝つ

▽30日

芝浦工大 28（17－13、11－11）24 日体大

立大 21（9－6、12－5）11 中大

教大 20（9－5、11－5）10 早大

慶大 16（7－7、9－7）14 明大

慶大勝つ

▽11月5日

芝浦工大 25（11－9、14－7）16 中大

慶大 16（8－8、8－6）14 教大

立大 19（11－8、8－6）14 日体大

早大 16（10－8、6－4）12 明大

芝浦工大敗れる

▽6日

早大 11（6－4、5－5）9 慶大

早大	得		慶大	得
綿貫	0	GK	山田	0
尾形	0	GK	西川	0
森田	1	FP	古村	1
水口	0	FP	花野	6
朝日	2	FP	石橋	0
伊藤	1	FP	安達	1
籏野	3	FP	田中	0
荻原	4	FP	小椋	1
亀山	0	FP	米田	0
森永	0	FP	梶井	0
大竹	0	FP	峰村	0

9（1）7MT（1）11

〔評〕 早慶戦にふさわしい気合いのこもった試合。早大は9－9から後半26分朝日、タイムアップ寸前に籏野のシュートで慶大を押えた。

教大 32（14－4、18－5）9 明大

明大	得		教大	得
岩瀬	0	GK	風間	0
田中	0	GK	上野	0
鈴下	0	FP	森田	1
光本	0	FP	川島	6
佐藤	1	FP	小山	0
小林	1	FP	大西	6
毛利	4	FP	平岡	5
鈴木	0	FP	畑	9
兼子	3	FP	古屋	0
高坂	0	FP	稲垣	1
田辺	0	FP	浅野	4

32（1）7MT（0）9

〔評〕 明大は全く元気なく、そのうえ負傷者が多かった。このため教大のワンサイドとなった。

日体大 25（20－6、5－7）13 中大

中大	得		日体	得
竹下	0	GK	佐藤	0
山崎	0	GK	加藤	0
渡辺	0	FP	神谷治	1
山中	0	FP	井上	1
森山	2	FP	木村	2
熊本	1	FP	平井	1
宮崎	3	FP	田島	2
佐野	2	FP	神谷葭	5
喜田	5	FP	大宮	2
城	0	FP	福井	7
植木	0	FP	早川	4

25（1）7MT（1）13

〔評〕 前半は互角。後半は中大のミスから日体大が攻め込んで一方的に勝った。

立大 17（10－7、7－7）14 芝浦工大

〔評〕 両チームとも持てる力をじゅうぶん発揮し、学生らしいファイトにあふれたゲームだった。立大は得意のセットプレーとうまみのある速攻で、芝浦工大にわずかの差をつけて勝った。芝浦工大は立大の早い帰陣にあってチャンスがなく、しかも近森がマークされてしまった。芝浦工大は今後の課題として、早いセットプレーをマスターすることだ。

立大	得		芝浦	得
尾形	0	GK	大石	0
川口	0	GK	山村	0
木野	4	FP	近藤	6
東	1	FP	岩崎	0
北井	2	FP	関根	3
藤城	2	FP	片山	0
北村	4	FP	山田	3
野田	4	FP	近森	2
楊原	0	FP	竹内	0
小野口	0	FP	小林	0
倉前	0	FP	白神	0

14（2）7MT（2）17

× ×

法大、一部に昇格

▽一、二部入れ替え戦（11月20日、駒沢）

法大（二部）24（12－8、12－6）14 明大（一部）

法大は二年ぶりに一部に昇格。

日体大対早大戦から

法大優勝

〔二部〕

日大 21（14—1 7—2）3 茨城大
法大 35（17—6 18—9）15 防大
東大 12（8—6 4—5）11 武蔵工大
武蔵工大 18（10—5 8—8）13 順天大
法大 19（13—7 6—2）9 日大
茨城大 13（4—7 9—5）12 防大
日大 10（6—5 4—2）7 東大
茨城大 19（12—9 7—7）16 武蔵工大
順天大 18（7—7 11—5）12 防大
日大 17（9—8 8—3）11 順天大
法大 36（17—2 19—7）9 武蔵工大
東大 21（9—7 12—4）11 防大
法大 31（19—1 12—5）6 東大
茨城大 23（13—4 10—6）10 順天大
武蔵工大 22（13—9 9—5）14 防大
順天大 12（10—4 2—5）9 法大
日大 15（9—4 6—1）5 防大
茨城大 13（1—0 0—0 7—6 5—6）12 東大
日大 20（13—3 7—8）11 武蔵工大
順天大 19（14—6 5—5）11 東大
法大 35（18—7 17—7）14 茨城大

〔順位〕①法大5勝1敗①日大5勝1敗③順天大4勝2敗④武蔵工大3勝3敗⑤東大2勝4敗⑤茨城大2勝4敗⑦防衛大0勝6敗

〔優勝決定戦〕
法大 22（14—11 8—5）16 日大

国士館大優勝

〔三部〕

国士館大 34—13 東京理大
明星大 38—12 上智大
関東学院 17—14 千葉工大
東京学大 20—10 関東学院
明星大 25—8 東京理大
国士館大 22—18 上智大
千葉工大 16—13 東京理大
国士館大 29—18 関東学院
東京学大 19—14 上智大
千葉工大 16—13 上智大
明星大 26—10 関東学院
東京学大 20—16 東京理大
国士館大 20—18 東京学大
関東学院 14—10 上智大
明星大 20—10 千葉工大
東京学大 18—16 明星大
国士館大 20—12 千葉工大
関東学院 16—13 東京理大
上智大 18—14 東京理大
東京学大 20—14 千葉工大
国士館大 15—10 明星大

〔順位〕①国士館大6勝②東京学芸大5勝1敗③明星大4勝2敗④関東学院大3勝3敗⑤千葉工大2勝4敗⑥上智大1勝5敗⑦東京理大6敗

▽二、三部入れ替え戦（11月20日駒沢）
国士館大（三部）19（10—6 9—2）8 防大（二部）

日女体大善戦

〔女子〕

日体大 26（15—0 11—0）0 国士館大
東京学大 7（3—2 4—4）6 国士館大
東女体大 15（8—2 7—2）4 国士館大
日体大 8（6—3 2—1）4 東女体大
日女体大 15（7—1 8—3）4 東京学大
日女体大 7（5—3 2—3）6 東女体大
日女体大 13（2—3 11—1）4 国士館大
東女体大 28（16—0 12—1）1 東京学大
日体大 19（10—0 9—1）1 東京学大
日体大 6（3—1 3—3）4 日女体大

〔順位〕①日体大4勝②日女体大3勝1敗③東女体大2勝2敗④東京学芸大1勝3敗⑤国士館大4敗

新加盟の国士館大チーム

新加盟の東京学芸大チーム

同大、秋季に6連勝飾る

関西、東海学連などの秋季リーグ戦は10月末から11月中旬にかけて各地で開かれ、全日本学生王座をねらう〝秋の覇者〟が決まった。（試合記鏡は次号）

【関西】同大、関学、甲南大、関大の4チームが前半快調に試合を進め、終盤の星のつぶし合いに興味がもたれたが、攻守に地力のある同大が全勝で3シーズン連続11回目の優勝を遂げた。同大はこれで秋季リーグに6連勝。

〔1部順位〕①同志社大7戦全勝②関大5勝1敗1分け（得点率0・635）③関学5勝1敗1分け（0・604）④甲南大4勝3敗⑤京大3勝4敗⑥大阪経大2勝5敗⑦桃山学院大1勝6敗⑧大阪大7敗

東海は中京大優勝

【東海】名大、愛知教大が常勝中京大に食い下がり好試合となった。中京大は攻撃に伝統の鋭さがみられず、ほめられたできではなかったが、他校をしのぐ体力で首位の座を守り切った。これで14シーズン連続15回目の優勝。女子は中京大が2シーズンぶり2回目の優勝

〔1部順位〕①中京大5戦全勝②名大4勝1敗③愛知教大3勝2敗④岐阜大2勝3敗⑤南山大1勝4敗⑥愛知大5敗

〔女子順位〕①中京大2戦全勝②中京女大1勝1敗③松阪女短大

富山大優勝

【北信越】連勝をねらう富山大が金沢美大、金沢大を降した。夏の全日本学生出場で各校の試合ぶりに進境がうかがえ、加盟校の増加が今後の課題。

◇北信越学生秋季リーグ戦（10月30日、金沢大学体育館）

富山大 32（17－9、15－4）13 金沢美大

富山大 28（19－5、9－7）12 金沢大

金沢美大 17（9－8、8－9）17 金沢大

引き分け

〔順位〕①富山大2勝②金沢大、金沢美大1敗引き分け

【中四国】今シーズンから一、二部制を採用、会場も初めて四国側（松山商大）で開かれた。その結果、岡山大が安定した攻撃力で4勝をとげ2連勝した。2部は山口大工学部。

〔1部順位〕①岡山大4戦全勝②山口大2勝1敗1分け③広島大2勝2敗④広島商科大1勝2敗1分け⑤近畿大4敗

立大、王座決定戦へ

◇全日本学生王座決定戦東日本予選（11月20日・駒沢）

▽準決勝

中京大 28（18－6、10－5）11 東北学院大

立大 36（16－4、20－3）7 富山大

▽決勝

立大 19（8－8、11－5）13 中京大

立大は15年ぶりに王座決定戦に出場。

優勝チーム

文理大は現東京教大。

（一部）　◎印は優勝決定戦

昭和	春季	秋季
13	文理大	明大
14	日体大	日体大
15	日体大	日体大
16	慶大・早大・日体	慶大
17	慶大	日体大
18	慶大	—
19	—	—
20	—	—
21	早大・日体・文理	明大
22	早大	早大
23	早大	文理大
24	早大	日体大
25	立大	◎早大
26	立大	立大
27	日体大	日体大
28	早大	早大
29	日体大	日体大
30	日体大	日体大
31	日体大	芝浦工大
32	日体大	芝浦工大
33	芝浦工大	芝浦工大
34	明大・芝浦工大	芝浦工大
35	芝浦工大	芝浦工大
36	芝浦工大	芝浦工大
37	◎日体大	芝浦工大
38	立大	芝浦工大
39	芝浦工大	芝浦工大
40	立大	芝浦工大
41	立大	立大

（二部）

昭和	春季	秋季
23	—	慶大
24	立大	—
25	—	—
26	明大	明大
27	法大	中大
28	法大	明大
29	—	—
30	—	早大
31	慶大	中大
32	防大	順天大
33	東大	立大
34	法大	防大
35	法大	立大
36	慶大	教大
37	教大	教大
38	教大	慶大
39	慶大	茨城大
40	慶大	早大
41	早大	法大

（三部）

昭和	春季	秋季
38	日大	日大
39	日大	学芸大
40	日大	武蔵工大
41	国士館大	国士館大

（女子）

昭和	春季	秋季
21	—	日体大
22	日体大	埼玉師範
23	日体大・東京一師	日体大
24～35	—	—
36	日体大	日体大
37	日体大	日体大
38	日体大	日体大
39	日体大	日体大
40	日体大	日体大
41	日体大	日体大

西ドイツの技術研究（7）

3:3攻撃から2:4攻撃へ（2）

藤　本　　強
（日本協会理事）

実際のフォーメーション（第1図参照）

（1）　7がボールを持ち、守備側を左サイドにひきつける。

（2）　7は2にパスしたあと、前に出ている守備選手の後ろに走り込む。ボールは2から3に、3から右サイドの5へと7の走る方向へとパスされる。

（3）　5はボールを4にパスすると同時に守備選手をブロックするためエリアにはいり込む。

第1図

第二の段階（第2図参照）

（4）　ボールを持っているプレーヤー4は右へ走り、守備のサイドの選手を引きつける。

（5）　エリアプレーヤー7は（右ききが望ましい）守備のすきにはいる。ここでノーマークができあがる。これの変化として、第3図のようにすることも可能である。

第2図

7人制ハンドボールは走ることであるから、コーチはチームを3人ずつ分けるのが有効と思われる。守備側を動かしながら、エリアのプレーヤーと浮いた位置のプレーヤーが交代しながら、流れるように動くことを習得させることである。

この交代は、より広い場所を使っての戦術にもいろいろの変化をもって、のぞむことができるようになる。この流れるような動きは、守備陣の動きを攻撃側がじゅうぶんに見、それに適応して動くのに利用される。

次の段階として、この3人のグループが形作られ、すべてのプレーヤーはこのなかの動きを完全にマスターしていることになる。

第3図

第三の段階はすべてのチームの人間が自らのチームの動きを完全に、タイミングの面でも位置の面でも正しく走り、正しくパスできるようになることである。このさい、全選手はあらゆる状況に適応し、異った状況に適合するプレーをするように、また全員が同一の意図をもってプレーするようにしていかなければならない。

留意する点

練習の手始めとしては、まず走り方とボールの扱い方を習得させることがたいせつである。各選手はこのプレーの動き、流れるような動きを走り方とボール扱いを通して覚えていく。選手は3：3フォーメーションから5：1防御にとって、最も危険な2：4フォーメーションに移り、また帰り、これを繰り返し、習得していく。これらの練習をとおして、攻撃・守備側とも同時に選手のレベルをあげていく。

フォーメーション応用編第一の時期（第4図、第5図参照）

第4図

第5図

（1）浮いた選手4は2にボールをパスしたあと、エリア中央に向かって突進する。サイドにいるエリアの選手7は浮いた位置へ帰る。同時に3はサイドに向かって走り、ブロックする。

（2）エリアプレーヤー6は自分の原位置を動かず、彼自身をマークしている守備選手を引きつけておかなければならない。

（3）ボールを持っている2は、フリースローラインまで進み、相手側選手と味方選手の動きをよく見る。2は重要な任務を持っている。まずボールを安全に保持し、自分自身がフリーにいて、味方のフリーになっている選手にパスをし、ノーマークを生み出す任務である。

このような動きは3：3フォーメーションから2：4フォーメーションに移ると同時に、右サイドに重圧をかけることになる。

第 6 図

（1）2人のコンビによるもの（エリアと浮いた位置にいる選手間のパスによるもの）

A、2から4に
B、2から6に
C、2から3に

（2）3人のコンビによるもの

A、2から4に、4から6に
B、2から3に、3から4に
C、2から6に、6から7に

このようにボールの動きを変えることでフォーメーションに多くの変化ができ、ノーマークのシュートチャンスが生まれてくる。

応用編第2の時期（第6図参照）

（1）浮いた位置の選手7は新たにボールを持ち、フリースローラインに向かって走る。そしてじゅうぶんに守備選手をひきつける。その間にエリアプレーヤー6はサイドに向かって走り、ブロックをする。

第 7 図

（2）4は守備中央の選手をひきつけておく。2はエリア中央にダッシュする。ここに2：4フォーメーションが成立する。

応用編第3の時期（第7図参照）

（1）5は7と密接な連絡を保っておく。

（2）3はエリアから抜け出し、浮いた位置に帰り、3：3フォーメーションに戻る。

（3）5にボールが返り、新たに3：3フォーメーションからの変化が始まる。

ボールの方向

①2人のコンビ

A、7から2に
B、7から4に
C、7から6に

②3人のコンビ

A、7から2に、2から4に
B、7から4に、4から5に
C、7から6に、6から2に

第8図 a) 基本的な位置をとる。b) ボールさばき、走り方の戦術の意図を決定する

このフォーメーションによって、疑いなくすべての選手が動き、しかも非常にすばやい動きをし、選手自身もまた、観衆もがじゅうぶんに満足するすばらしいプレーができる。

しかしながら、その前に全選手がじゅうぶんに走り方、ボールさばきに習熟していること、ボールを確実に目的をもってさばき、流れるように動けるよう一にも二にも練習することが必要であろう。

流れるように動くことは走り方の基礎である。相手方に混乱を起こさせ、その結果、多くの戦術上の成果をあげることになるのは確実である。これらの動きはすべての選手が流れるように動き、位置もタイミングもマスターした場合にのみ、効果を生む。特に走り方のマスターが最も困難である。そこで繰り返しになるが、もう一度まとめておく。

第9図　c) 一見右サイドをつくとみせ、相手をあざむく。

（1）浮いた位置にある選手たちはすばやくパスを送り合う。特に消極的に沈んでいる守備陣にたいしては、エリアラインに向かってダッシュするか、力強いロングシュートを放つかし、くずしていくことが必要となろう。

（2）3：3フォーメーションから2：4フォーメーションへの変化は、まず5：1防御の前に出ている守備選手の後ろへ斜めに走り込むことによって始まる。走り方は守備のすきに向かって最大のスピードで行かなければならない。選手はこのことをマスターしていなければならない（すばやいパスももちろんである）。

（3）サイドにいる選手も含め

第10図　d) 左サイドで攻撃側の多数化に成功。
e) 戦術の効果が表れる。

エリアにいる選手は、互いに位置をすばやく変えながらブロックをし、またパスを受けることをする任務がある。戦術では、相手の意表をつくこともきわめて重要なことである。突然、走る方向、ボールの方向を変えることは非常に有効となる。たとえば第8図、第9図、第10図に示すような方法である。ここではまず右サイドをつくと見せて守備陣の意表をつき、左サイドにボールを回し、ノーマークをつくっている。

終わりに

コーチおよび選手は、室内ハンドボールの新しい技術、戦術をこの基礎の上に次々と知っていくであろう。この戦術上の変化はチームの基礎の上に組み上げられるものである戦術上のすべての可能性を示しうるものではない。いくら労力してもそれは不可能であろう。よいプレーは基礎的なハンドボールの理念の上に打ちたてられる。

7人制ハンドボールというものは容易につかみ得るものではない。そこでその戦術を図化し、解説していくことは一応はできるが、その細部にわたっては不可能である。ただ技術、戦術の基礎的な動きを示すことはできても、それ以上は無理であろう。

この基礎の上に立ち、それぞれの特技を生かしてフォーメーションをつくりあげ、それを状況に応じて変化させていき、ボールさばきも走り方もマスターしていく。

（了）

海外スコープ

世界選手権は4年ごとに

ミュンヘンオリンピック　女子開催申し入れ

ＩＨＦ総会・9月

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）は九月二、三日の両日コペンハーゲン（デンマーク）で総会を開いた。二十六カ国から約百人の関係者が集まり、ＩＨＦ創立二十周年記念総となった会。

〔参加国〕東ドイツ、西ドイツ、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、コートジボアール、デンマーク、アラブ連合、スペイン、フインランド、フランス、ハンガリー、アイスランド、イスラエル、ルクセンブルク、モロッコ、ノルウェー、オランダ、ポーランド、ルーマニア、スウェーデン、スイス、チェコ、チュニジア、ソ連、ユーゴ

〔決定事項〕

◇1968年の第4回女子7人制世界選手権大会はソ連で開く。

◇1969年の第8回男子11人制世界選手権大会は西ドイツで開く。

◇1970年の第7回男子7人制世界選手権大会はフランスで開く。

◇各国チャンピオンチームによる1966年のヨーロッパ・カップ大会は男子が西ドイツ、女子はチェコで開く。

〔協定事項〕

（1）　1972年のミュンヘン・オリンピック大会にはハンドボールが正式種目として三十六年ぶりに登場するが、1970年からは世界選手権大会の開催周期を検討しなければならない。世界選手権大会は現在の三年周期から四年周期にしたいと考えている。

（2）　オリンピックとの関係から1970年の第7回男子7人制世界選手権大会の予選はすべて西ドイツで開くようにしたい（ただし1967年大会の優勝チームと西ドイツは予選に出場しなくていい）本大会は16チーム方式がとられる予定である。また本大会の上位8チームは1972年のミュンヘン・オリンピック大会の出場資格を与えるようにしたい。

（3）　ミュンヘン・オリンピック大会には、女子の競技も開催するよう西ドイツ・オリンピック委員会に申し入れている。

〔競技規則関係提案事項〕

女子の試合を25分に　審判は二人制

この総会で各国から競技規則にかんして19の提案があった。バウマン会長は「1972年のミュンヘン・オリンピック大会まで、これ以上の提案をしないよう」に要望した。

提案事項のうち、最も重要なものは次のとおり。

（1）　女子の試合時間を現行の20分から25分に改正する

（2）　7人制ハンドボールに第二審判を採用する。ゴールジャッジは廃止。

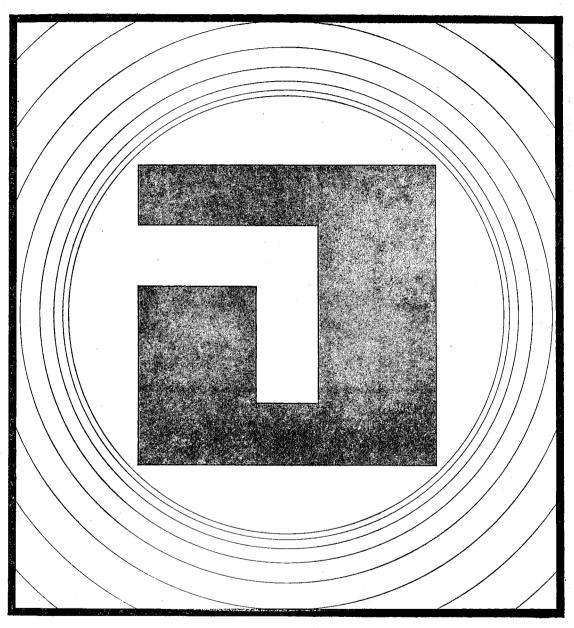
（3）　ボール保有時間の正確な測定。

（4）　フリースローのさいのラインオーバー

（5）　有効競技時間の正確な測定

（了）

キャプテンは忙しい

一色高（愛知）

キャプテンはいま、A子の悩みを解決するのに懸命だ。かわいそうにA子には父親がない。母親が父親の代りなので、彼女は主婦の役目をしなければならない。それにもちろん学生だから勉強も、おまけに母の手伝いもしている。キャプテンはそのことを打ち明けられたとき、フッと思った。「もしかしたら、ハンドボールを続けさせるのは無理かもしれない」と。でもあえて言った。「がんばろうよ。若いんだもん。応援するからさ」彼女は「若いのか。そうだね」って複雑な面持ちで小さくつぶやいた。その前にはT子がトラブルを起こして練習にも出られないほど……。

だが、彼女たちは、いま元気にハンドボールをやっている。クラブ活動って、それでいいかもしれない。ある日、Y子が言っていた。「私たちのクラブ活動って、なんだかテレビのドラマみたいだね。みんなキャプテンに心配ばかりかけて」と。でもキャプテンの悩みはまだまだあった。練習計画のこと、練習時間のことも……。ただ、いつも彼女がうれしく思っていることは、自分の悩みを相談できる人が身近にたくさくいることだ。まず先輩がいる。次に男子部員。彼らは常に彼女の力になってくれている。こんな部員たちにとりまかれながら、キャプテンはいま苦しみながらもすばらしい毎日を送っている。もちろんハンドボールによって得られる毎日です。少し本題から離れたかもしれませんが、一生懸命書いてみました。（主将　尾崎美芳）

尾崎美芳さん

がっちり行こう!!

池田高（大阪）

池田高女子ハンドボール部は現在13人の部員で編成されている。クラブの特徴をひとくちに言えば、明朗で、楽しく、団結力が強いといえると思う。人数は少ないが、内容は充実している。ここにもう一つ「戦っても強い」とつけ加えることができたなら、最高のハンドボールクラブになるだろう。

ことしの国体予選では、二部ではあるが、優勝できた。真新しいカップをもらったときのあの感激は、生涯忘れることができないだろう。強いと聞いていたあの布施女子との戦いに勝てたときの喜び。これまで数多くの試合をしてきたが、みんなが持っている力を、あれほど思うぞんぶん出し切って戦ったのは初めてだろう。私たちがモットーとしている「ファイトで行こう!!」「がっちり行こう!!」を絶えず口に出してがんばった。いま、私たちはこのときのがんばりが、いつの試合にも出せるように努めている。

池田高校

二部から一部へ、そして国体への出場。みんなの夢は果てしなく大きい。いや、夢ではなく、実現への目標に向かって行進しているのだ。部員一人一人が自覚を持って……。（杉本ひかる）

喜びも悲しみも

城東工高（大阪）

我が校ハンドボール部は、初め数人の者が放課後、ゴールポストの近くで雑談しているうち一人二人と集まり、数日後になんと十数人となる。その後クラブ設立の機運が高まり、設立機関に申請したところ、「あっ」という間に却下。このときは悲しかった。既設クラブが34ではなかなかのことではない。

それからというものは、通路あるいは運動場の片すみでひっそりと練習した。その間、いくどもいくども解散を命ぜられた思い出が、いまでもからだのどこかにある。しかしそれにもくじけず、昨年校内関係機関に内諾を得ずして顧問が高体連に加盟、待望の工業高校秋季大会に二部として出場し、幸運にも優勝してしまった。そして一部へ昇格。優勝杯を手にしたときの部員の喜びは、それこそ口では言い現わせぬものがあった。

しかしそれもつかの間、翌朝優勝杯を片手に登校した部員一同の喜びは一瞬にさめ、顧問は校長室へ。やがて朝礼。伝達表彰後、校長は全校生を前に一大訓示。長く感じた15分。頭をたれて聞く僕たち。そうした中にも、ここでくじけてなるものかという気持ちが脳裏をかすめる。それ以後の練習には気迫が満ち、寒かった冬もはだかでがんばり、職員、生徒も黙認するところにまでなったが、クラブとしての認可はついに得られなかった。

城東工高

春も終らんとする四月の末、突如として生徒会顧問から認可発表。感無量。一粒の水滴がほおを伝う。一年半にわたる長い苦難の道であった。もちろん顧問寒川先生（昭和二十三年日体大卒）の努力も忘れることはできない。

うれしかった初勝利

日南工高（宮崎）

我が校にハンドボール部が結成されてから約一年である。どんな競技であるか、それさえ知らない者ばかりで始まった。近くの学校にはハンドボールチームはなく、練習試合は全然できない。そのためか最初の試合は簡単に押さえつけられた。スタミナのなかったことが敗因であった。

倉尾孝文君

出場するからにはやはり勝ちたい。その意気込みで夏休みはコートに水をまき、そしてまた水をまき、先生にどなられながら練習をやった。その結果、初めて1勝した。この1勝をかちとったとき、みんなで手を取り合って喜んだ。敗戦の道をたどってきたわがチームは、回を重ねるにつれ実力を発揮できるようになり、もう少しというところまでこぎつけた。

宮崎県ではまだハンドボールはあまり知られていない。チーム数も少ない。しかし少ないチーム数でも首位に立つことはむずかしい。まずこの首位を目標に、毎日毎日練習に汗を流している。（倉尾孝文）

貴重な体験

金川高（岡山）

部の発足と同時に入部した私たちも、ことしで三年目、そろそろ卒業です。ふり返ってみますと、毎日の練習、合宿、遠征など数々の思い出があります。特にことしの春の大会で初めて県下で第二位という成績を収め、山口市で開かれた中国大会に参加できたときのよろこびは、なにものにもかえがたいものでした。まして学校あげての応援は、涙の出るほどうれしかったことです。

しかし試合の結果は、二回戦で惜しくも負けてしまいました。あのときのくやしさを二度と味わないために、部員一同はいっそう闘志を燃やして練習に励みました。ことに夏休みの合宿で、じりじりと照りつける太陽の下で、汗と土にまみれて歯をくいしばってがんばった。あのときのつらい、苦しかった練習も、いまとなってはなつかしい思い出となっています。

金川校高

練習練習に明け暮れた三年間は長くも感じられた。また短くも感じられました。貴重な体験―それは練習や試合を通じて、心から話し合える友を得たことや、スポーツマンとしてのマナー、不屈の闘志を体得したことは、これからの人生において必ず役に立つことがあると確信しています。（主将　安宗加代子）

夢は国体出場

松江工高（島根）

我が松江工高の広大なグラウンドの一角で、掛け声も勇ましく練習に励んでいるのがハンドボール部です。クラブができてまだ日は浅いが、それでもなんとかひと通りのことはできるようになってきました。しかし、まだまだ伝統のある名の知れたチームに比べると、技術的な面でも精神的な面でも弱いところがあります。

一人でも不調な選手がいると、それが全体に影響する。そしてこれが最後まで尾を引いてしまう。冬季練習では、こういったところをもっとしっかりやり、先輩のなし遂げられなかった国体出場という大きな夢を、なんとか実現してみせようと部員全員はりきって練習をしています。（丸山峰正）

松江工高

内容ある試合を

高松工芸高（香川）

本校ハンドボール部ができてからもう十七年になります。香川県下では男子チーム数8、女子チーム4とまだ普及発展の途上です。本校はこの少ないチームのなかで伝統を誇っている。しかし、ここ近年になって急にチームが小型化し、部員数も他校に比べて少なく、二チーム編成できません（現在二年五人、一年五人）。身長もまた同じで、平均164センチと県下で最も小柄です。つまりトランジスタです。

部員のなかで中学時代にハンドボールをやった者は二人。だから基礎体力をつけて、そして基本的なボール扱い、キャッチ、パス、シュートをやらなければなりません。ストップ、ターン、サイドステップも同様です。これらに多くの時間を費し、高度な技術的訓練もなかなかじゅうぶん習得できません。そのうちグラウンドが狭く、野球部、サッカー部、バレーボール部などが使用しているので、じゅうぶんな練習場所が得られません。

高松工芸高

このようなかで、ことしの試合は3勝3敗で五分の成績でした。この3勝は一回戦、3敗は二回戦で優勝候補と合って完敗しています。だから部員一同、一丸となって三回戦まで進んで内容のある試合をしたいというのが僕たちの願いです。（主将　植田光春）

宿毛農工高（高知）

がんばろう

本校は独立四年目で、総生徒数五百に満たない学校です。三十八年、学校独立とともにハンドボール同好会として出発し、昨年ハンドボール部として結成した。現在部員十余人。みんなが協力して、南国の太陽の照りつける日も雨の日も、毎日毎日汗と土とで真黒になり、夕方おそくまで練習に励んでいます。同好会としての一年間は、体育教材用のボール、ネット、ポストを借りて練習しました。部費が少なくて困るのは、どこの学校の運動部でも共通した悩みだと思いますが、わずかな備品を最大限に有効に利用しています。

宿毛農工高

ことしは夏休みに初めて合宿訓練をしましたが、平素の訓練と違ってチームワークをとることに大いに効果があったと思います。それから顧問の西、高橋両先生それにみんなの協力で、女子のハンドボール同好会もことし五月に発足しました。郡下では初めての女子のハンドボール部です。対外試合につごうの悪いこともありますが、一生懸命がんばっています。九月には男女とも県下高校体育大会に出場しましたが、男子もいままでにないすぐれた試合を展開し、女子は県下五チームの中で三位という成績でした。ことしから練習を始めたにしては、まず良好な成績だと私は思っています。今後も母校や後輩のために、みんなで懸命の努力を続けたいと思っています。（主将　徳田好則）

巻　高（新潟）

ほしいものは

私たちの学校は、新潟県の巻町にある普通高校です。全校生徒千七百人マンモス学校。そのなかで運動クラブは私たちのハンドボールをはじめとして野球、サッカー、ホッケー、その他14種目です。これも運動クラブの多い点ではマンモスだと思います。

巻高校

私たちクラブ員の悩みの一つもそのマンモスに関係あります。雨の日などは足の踏み場もない体育館、それに私たちは雪国であるため、十一月ごろから体育館での練習が始まります。県内でも大きい方にはいる体育館ですが、私たちのクラブが練習する余地は全然ありません。こんなとき、自由に練習できる場所があったらと思うのが、私たちクラブ員の共通の思いです。

放課後になると、いろいろな色彩が入り乱れ、ごった返すなかで、あるときはころんで髪の毛を踏まれたり、人と人との衝突、ラケットでたたかれたりします。試合前になると、他のクラブに頭を下げて、ある時間内にその場所を借りるのが精いっぱいです。このような状態なので早朝練習を思いつき、現在は試合前になると朝練習をやっています。

ところが、遠方からの通学者が多いため、朝五時ごろ家を出ても練習を始めるのは七時ごろからです。八時三十分から授業が始まりますので、一時間少々しか練習ができません。暖かい地方がうらやましく思えてなりません。その他グラウンドが軟弱で、晴れているときは校舎の屋上で練習をします。私たちは練習場所および練習時間がほしいのです。最後に伝統浅い巻高ハンドボール部を一歩一歩前進させ、良い成績を残すためにも今後もがんばっていきたいと思います。（主将　皆川　帝）

お断わり

次号（40号）の1月号はお休みします。1、2月合併号を2月1日に発行します。

F.F.H-B

連載第28回

ハンドボール球史

～女子高校現役が連勝～

全日本総合選手権も第七回を迎えると、ようやく球界最高権威の大会としてその体制を整え、各チームも年間計画のピークにおいて大会へ臨むようになった。第7回大会は兵庫県明石市に男子34、女子9チームを集め、男子は最多数を記録した。しかし出場地区は関東14、近畿12とますます偏向、その他の地区（東海5、中国2、九州1）を圧倒した。

優勝は大方の予想を裏切って西日本日体OB(福岡)がさらった。九州地区からこの大会にチームが参加したのは初めてで、快挙といえたが、構成メンバーの主力は大阪、兵庫、福岡で〝純九州〟というには混成色が強すぎた。

連勝をねらう全日体大、全関学、教大A、三田ク（全慶応・東京）の有力チームが同じブロックに並んで共倒れ？したラッキーもあった。ベテランによって編成された西日本日体OBの円熟した技術と老巧な試合運びが大阪歯大、関大、明大（準決勝）、教大A（決勝）らの若さと力の学生チームを制したのは話題であった。このほかでは、当時関東学生で快進撃を続けていた（注・昭29春から5連勝）日体大が3チームを送って厚い選手層と高水準を誇ったのが注目された。

女子は史上初の高校同士の決勝となり、水海道二高（茨城）が初優勝。同校はこの大会の1週間前に駒沢で開かれた第6回全国高校に出場、このときは2回戦で敗れている。準優勝の半田高（愛知）は県予選で敗れ、全国高校には姿を見せていない。その両校によって決勝が争われたのだから、大会の権威がうんぬんされ、当時の女子界のレベルがとかくの批判をうけたのも当然かもしれない。

しかし実業団の台頭と学生勢の奮起で、内容、ムードの盛り上がっている現在とはすべての事情が異っていた。当時としては〝底辺〟である高校女子界の充実が最優先され、指導者の情熱もこの一点にしぼられていたのだから、この現象を責めるわけにはいかないだろう。

むしろ、それまではOGたちの情熱によってささえられてきた球界が、水海道二高の優勝によって大きく塗り替えられ、発展への第一歩を刻んだといっていい。大会前死去された恩師小林六七氏の遺影を胸に表彰される水海道二高の感激の姿は、同時に新しい女子ハンドボール界の開幕を告げる姿であった。

▼第7回（昭和30年8月25日―27日・兵庫県明石市明石公園球技場ほか）

▽男子1回戦（2試合）
- 明星ク（東京）25―7 富田林（大阪）
- 兵庫工ク（兵庫）不戦勝 全茨城大（茨城）

▽2回戦
- 全日体大（東京）31―8 明星ク
- 芝浦工大（東京）24―7 大阪市大（大阪）
- 兵庫ク（兵庫）不戦勝 呉宮原OB（広島）
- 全関学（兵庫）26―7 篝火ク（岐阜）
- 教大A（東京）25―4 甲南大（兵庫）
- 山口ク（山口）32―8 愛工OBク（愛知）
- 日体大C（東京）16―12 五陵ク（愛知）
- 三田ク（東京）23―3 大垣南高（岐阜）
- 関大（大阪）19―15 全鎌倉ク（神奈川）
- 六陵ク（大阪）29―6 高津ク（大阪）
- 西日本日体OB（福岡）26―7 大阪歯大（大阪）
- クローバー（京都）14―11 教大B（東京）
- 明大（東京）14―0 東京球友会（東京）
- 愛知学芸大（愛知）11―10 明石ク（兵庫）
- 日体大B（東京）10―8 全早大（東京）
- セントポール（東京）19―6 兵庫工ク

▽3回戦
- 全日体大 25―15 芝浦工大
- 全関学 28―7 兵庫ク
- 教大A 18―15 山口ク
- 三田ク 13―10 日体大C
- 関大 12―12（抽選）セントポール
- 西日本日体OB 19―11 六陵ク
- 明大 16―4 クローバー
- 日体大B 19―17 愛知学芸大

▽準々決勝
- 全日体大 14（5―6、9―4）10 全関学
- 教大A 15（5―4、10―5）9 三田ク
- 西日本日体OB 19（7―11、12―2）13 関大
- 明大 11（4―5、3―2：3―1、1―0）8 日体大B

▽準決勝
- 教大A 10（7―3、3―2）5 全日体大
- 西日本日体OB 10（5―6、5―2）8 明大

▽3位決定戦
- 全日体大 13（5―8、8―5）13 明大

同点引き分けとなり両者3位。

▽決勝戦
- 西日本日体OB 11（5―3、6―4）7 教大A

優勝メンバー

光島磯雄　中出盛雄　望月伸三郎　瀬尾秀己　山本孝男　狩野幸介　高山政悟　石田恒樹　村田弘　中西敬一　臼杵敏行　今村孝一　時枝末六

▽女子1回戦（1試合）

半田高（愛知） 不戦勝 大谷ク（大阪）

▽同準々決勝

半田高 9—8 日体大（東京）

寝屋川ク（大阪） 12—1 明石ク（兵庫）

稲沢ク（愛知） 13—2 梅花ク（大阪）

水海道二高（茨城） 7—4 岸和田ク（大阪）

▽同準決勝

半田高 4（2—0、2—3）3 寝屋川ク

水海道二高 3（1—1、2—1）2 稲沢ク

▽同3位決定戦

寝屋川ク 10（3—3、7—0）3 稲沢ク

▽同決勝

水海道二高 8（5—3、3—4）7 半田高

優勝メンバー

渡辺久代　古谷信子　中島義江　石塚千鶴子　富山千恵子　串田斐子　吉川愛子　増山よし江　中村博子　須賀則子　羽富くに子　飯島みつ　色川貞子　本田みさ子

西日本日体OB決勝で敗る

昭和31年は球界待望の西ドイツ（男子）来日が決まった年。会場地の清水市は、ハンドボールにたいする関心がきわめて高い土地で、連日多くの観衆がコートサイドを埋めた。

男子は連勝をねらう西日本日体OB（福岡）全日体大、全教大三者の争いと予想された。まず準決勝で全日体大対全教大が激突、全日体大が全教大の猛反撃をかわして勝ち進んだ。西日本日体OBは2回戦で名門セントポール（東京）に辛勝したあとは、比較的楽な試合を続け、全日体大と対戦した。

同門の対戦とはいえ、球界を代表する有力選手が東西に二分されての対決で、激しい闘志のぶつかり合いとなった。試合は予断を許さぬ展開となったが、全日体大の若さと力が、時間の経過とともに〝技〟の西日本日体OBを圧して栄冠を握った。全日体大の優勝は2年ぶりのことで、日体系7回目の優勝に当たる。

三強以外ではセントポール、桜丘会（愛知）の地力が目立った。特に桜丘会は常勝桜台高のOBチームらしいあざやかな攻守で全関学、明大を破り、準決勝に進んだのは特筆されてよい。地元のホープ清水商高（静岡）が2回戦で日体大を破ったのも大番狂わせ。富山ク、全静岡の善戦も光った。

女子は、前回2年生を主力にして快勝した水海道二高（茨城）が若手OGを加えてエントリー。連勝確実とみられたが、準決勝で名門全静岡城北高に敗れた。水海道二高は全国高校茨城県予選でも太田二高に敗れるなど、この年は不運がつきまとった感じ。

優勝は前回2位の半田高（愛知）が全静岡城北高を降して宿願を果たした。同校はこの年も全国高校には県予選で敗れたため出場していない。優勝メンバーの主力5人が翌年卒業と同時に愛知紡へ入社、「愛知紡時代」を出現させる原動力になることは周知のとおりだ。

余談になるが、半田高の全国高校出場を県内ではばんでいたのは稲沢高で、28年優勝、30、31年は連続2位の強者。

▼第8回（昭昭31年8月4日〜8日、静岡県清水市清水商高ほか）

▽男子1回戦

鎌倉学園OB（神奈川） 10—9 全立大（東京）

静岡大ク（静岡） 12—7 明星ク（東京）

全早大（東京） 16—15 富山ク（富士）

足利ク（栃木） 記録不明 関東学院高ク（神奈川）

全芝浦工大（東京） 23—5 愛知学芸大（愛知）

全慶応（東京） 16—14 全静岡（静岡）

全日体大（東京） 26—6 五陵ク（愛知）

明大（東京） 25—10 奈良ク（奈良）

桜丘会（愛知） 14—10 全関学（兵庫）

日体大（東京） 17—7 鎌倉学園高（神奈川）

清水商高（静岡） 記録不明 三浦学苑ク（神奈川）

岡崎ク（愛知） 8—2 慶大（東京）

芝浦工大（東京） 記録不明 全茨城大（茨城）

セントポール（東京） 不戦勝 桐生ク（群馬）

▽同2回戦

全教大（東京） 22—4 鎌倉学園OB

全早大 15—3 静岡大ク

全芝浦工大 22—5 足利ク

全日体大 19—6 全慶応

桜丘会 19—12 明大

清水商高 20—18 日体大

芝浦工大 13—6 岡崎ク

西日本日体OB（福岡） 14—12 セントポール

▽同準々決勝

全教大 19（5—4、14—3）7 全早大

全日体大 20（17—6、3—3）9 全芝浦工大

桜丘会 21（10—3、11—4）7 清水商高

西日本日体OB 14（9—3、5—3）6 芝浦工大

▽同準決勝

全日体大 8（5—2、3—5）7 全教大

西日本日体OB 13（8—5、5—4）9 桜丘会

▽同3位決定戦

全教大 22（11—4、11—4）8 桜丘会

▽同決勝

全日体大 14（5—3、9—4）7 西日本日体OB

優勝メンバー

加藤雅之　堀勤　小鳥居安彦　今田寿一　斎藤一　森豊夫　幸田末之　柳沢民弥　浅野克彦　皆川茂夫　竹野奉昭　山形久　泉幸男　関川正道

▽女子1回戦（2試合）

二階堂ク（東京） 10—1 五陵ク（愛知）

日体大（東京） 不戦勝 岩井高（茨城）

▽同準々決勝

水海道二高ク（茨城） 7—3 二階堂ク

全静岡城北高（静岡） 11—0 大谷高（大阪）

梅花学園（大阪） 不戦勝 稲沢ク（愛知）

半田高（愛知） 12—10 日体大

▽同準決勝

全静岡城北高 3（2—2、1—0）2 水海道二高ク

半田高 18（9—1、9—2）3 梅花学園

▽同3位決定戦

水海道二高ク 記録不明 梅花学園

▽同決勝

半田高 9（5—3、4—3）6 全静岡城北高

優勝メンバー

本間徳子　滝本芳子　竹本郁子　八谷悦子　黒野政子　西岡彰子　桑山春子　瀬川晶子　則武のぶ子　磯部昌子　沢田勝子　青木悠子　村瀬道子　田中圭子

地方だより ○●○●

湯沢、和洋女優勝

◇秋田県高校新人大会（11月12～13日、湯沢高校体育館）

▼女子リーグ

秋田和洋 15―0 大曲
六郷 9―1 大曲農
秋田和洋 17―2 大曲農
六郷 18―5 大曲
秋田和洋 15―2 六郷
大曲農 4―3 大曲

（順位）①秋田和洋3勝②六郷2勝1敗③大曲農1勝2敗④大曲3敗

▼男子リーグ

大曲 12―9 秋田南
大曲農 15―5 横手
湯沢 21―4 秋田南
大曲 13―9 大曲農
湯沢 32―2 横手
大田農 13―9 秋田南
大曲 15―3 横手
湯沢 25―5 大曲農
秋田南 17―11 横手
湯沢 12―1 大曲

（順位）①湯沢4勝②大曲3勝1敗③大曲農2勝2敗④秋田南1勝2敗⑤横手4敗

坂出工と三本松勝つ

▼香川県高校秋季選手権（11月、香川）

▽男子準決勝

坂出工 19―6 香川
三本松 13―6 土庄

▽同決勝

坂出工 10（3―3 7―5）8 三本松

▽女子準決勝

観音寺 9―8 高松女商
三本松 8―6 香川

△同決勝

三本松 6（6―1 0―0）1 観音寺

松陵工が躍進

▼石川県高校新人戦（11月・小松）

▽男子準決勝

松陵工 16―11 小松
金沢市工 8―8 工大付
（抽選で金沢市工の勝ち）

▽同決勝

松陵工 15（7―10 8―1）11 金沢市工

▽女子準決勝

小松市女 16―1 松任
金沢商 12―1 明徳

▽同決勝

小松市女 14（8―1 6―3）4 金沢商

愛工クが全勝優勝

▼名古屋市秋季選手権（10月・名古屋）＝男子のみ

▽決勝リーグ

愛工ク 24―8 名高等無線
愛工ク 12―9 大同製鋼
タヨシ産業 18―11 名高等無線
大同製鋼 24―14 名高等無線
タヨシ産業 棄権 大同製鋼
愛工ク 14―10 タヨシ産業

【順位】①愛工ク②タヨシ産業③大同製鋼④名古屋高等無線

実業団だより

関東実業団連盟発足
来年三月に関東大会

関東実業団ハンドボール連盟設立準備委員会は、大崎電気工業株式会社社長渡辺和美氏、株式会社日進商会副社長平出一氏らの協力で、十一月五日（土）午後二時から大崎電気工業株式会社会議室で開いた。出席者全員で協議した結果、連盟設立を正式に決定し、同日発足した。

（出席者） 渡辺和美（大崎電気工業株式会社社長）平出一（日進商会副社長）猪狩武春（三菱鉛筆総務部長）富永劭（自衛隊勝田）宮坂靖彦（原子力研究所）青木茂（日本鋼管川崎製鉄所）志津里為治（三菱重工水島）高山広（日進商会）鶴薗利彦（和同建設）石川潔（日立製作日立工場）泉正明（日本発条）塩川安賢（レナウン）

（協議決定事項）

一、名 称 関東実業団ハンドボール連盟という。

一、事務所 横浜市南区南大田一ノ四〇 株式会社日進商会に置く。

一、役 員 会長に数原洋二氏（三菱鉛筆株式会社社長）、理事長に平出一氏（日進商会副社長）を選出、理事は各県から一人選出した。富永劭（茨城、自衛隊勝田）泉正明（神奈川、日本発条）高山広（神奈川、日進商会）塩川安賢（東京、レナウン）今野邦彦（埼玉、大崎電気）＝ただし神奈川県は二人とする＝。千葉、群馬、栃木県は欠席したため、各県に連絡のうえ理事一人を選出してもらう。また副会長には日本鋼管から選出していただけるよう交渉する。なお数原洋二氏の会長就任については、渡辺和美氏から同氏に懇請していただく。

一、事 業 連盟設立を祝して来年三月中に横浜市で関東実業団ハンドボール選手権を開く。四十二年度からは関東実業団リーグ戦を開く。このリーグ戦は春秋二回、男女とも開く予定で、近く具体案をつくる。

一、その他 当連盟の基本方針は、むだな経費を省いて、数多く試合を続けてレベルアップし、日本のハンドボール界に寄与する。近く規約作成委員会を開いて規約をつくる。（了）

編集後記

○…第21回国体も無事終了し、ハンドボールは大阪府が優勝した。毎年のことながら国体はたのしいもの。小袋競技副委員長の話によると「国体という気安さのためか、ゲームのうえにピリッとしたものが感じられなかった」とある。もしそうだとすれば、由々しき問題である。そんなつもりはないのだろうが、年に一度、親しい友だちに会ううれしさから多少気がゆるむのだろう。来年からは、そのようなことがないようにがんばろう。

○…「寝屋川クラブ（女子）の活躍はりっぱだった」と藤田大会副審判長はほめている。クラブチームの衰退がいわれているときだけに明るいニュースである。男子の和商クラブ、塩山クラブ、氷見クラブもほめられていい。クラブチームの選手たちを大いに育ててようではありませんか。

○…関東学生リーグで立大が春に次いで芝浦工大を破り2連勝した。おめでとう。惜しくも敗れた芝浦工大よ、来シーズン大いにがんばってほしい。早大、慶大がAクラスにはいったのは快挙といっていい。それにしてもハンドボールの名門といわれた教大、日体大の後退はなんとしたことか。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第三十九号
昭和四十年六月十日第三種郵便物認可
昭和四十一年十一月二十五日印刷
昭和四十一年十二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価百五十円

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

営業二課／栗田満夫

パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。

営業三課／打林行夫

本社新社屋

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。
よい製品をつくる励みになります。

営業一課／庄司政雄

新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　社 東京都千代田区神田猿楽町１－４　TEL 東京(292) 2011（代）～8
横浜支社 横浜市西区高島通り１－７　TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社 福岡市御供所町３番16号（聖福寺前）　TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場 東京都昭島市東町１丁目１番地５号 TEL 立川(0425) 2－2470・4383
九州工場 佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　TEL 牛津 72

横浜支社